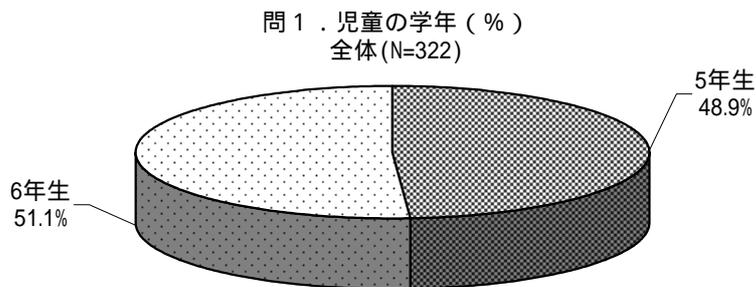


【 1 】 属性及び家族の状況

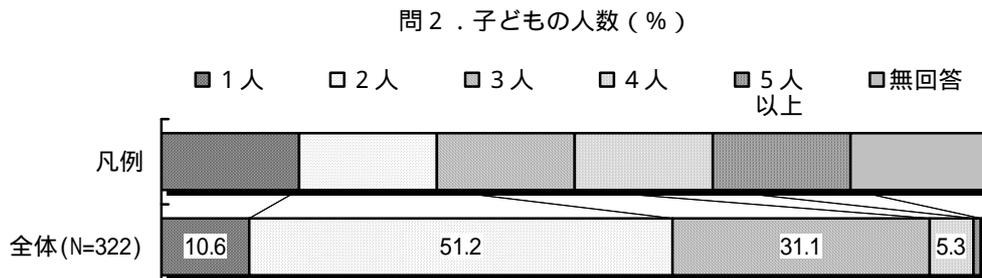
1 . 子どもの年齢（問 1）

子どもの年齢は「 5 年生」が 48.9%、「 6 年生」が 51.1%の内訳となっている。（設問は生年月月ですが、学年で集計しています）



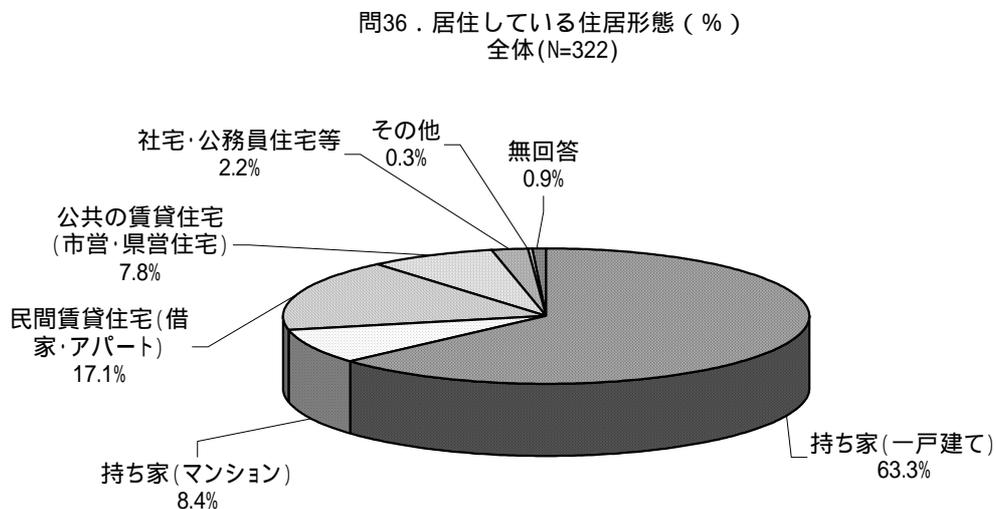
2 . 子どもの人数（問 2）

子どもの人数は、「 2 人」が過半数（ 51.2%）を占め最も多く、次いで「 3 人」（ 31.1%）、「 1 人」（ 10.6%）と続き、これらで全体の大半（ 92.9%）を占めている。



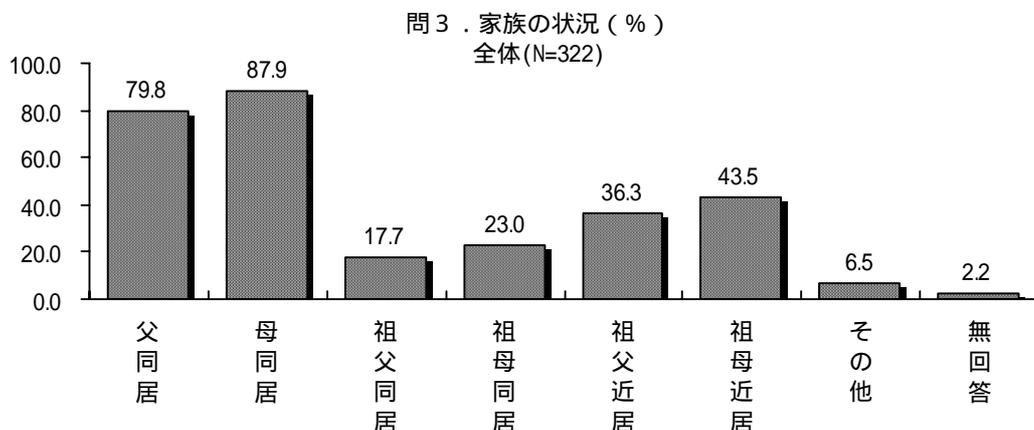
3 . 現住居の形態（問 36）

住居については、「持ち家（一戸建て）」が 63.3%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅（借家・アパート）」が 17.1%となっている。



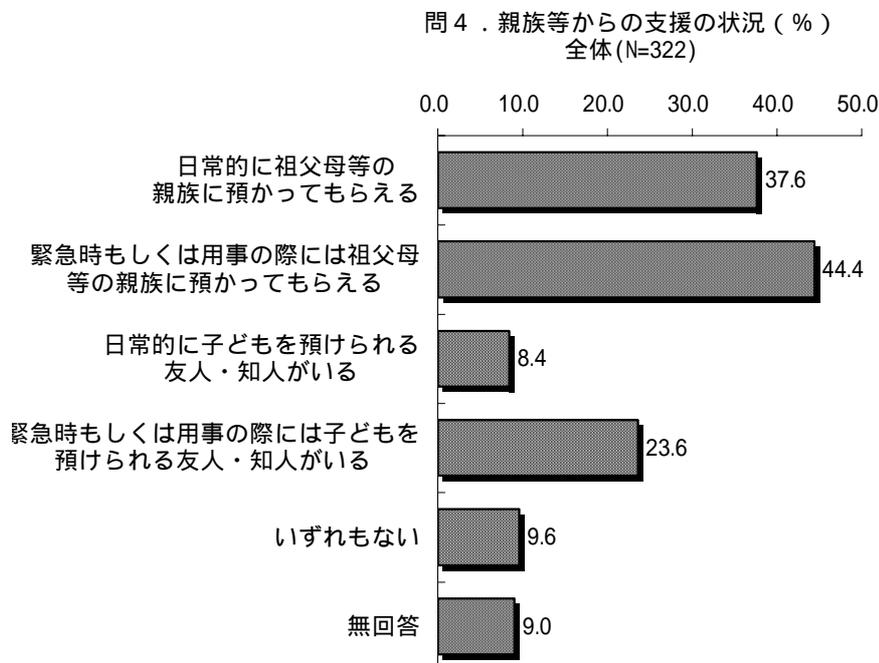
4. 家族の状況（問3）

家族の状況については、「母同居」が 87.9%、「父同居」が 79.8%と大半を占める。以下「祖母が近居」（43.5%）、「祖父近居」（36.3%）の順で、「祖母同居」は 23.0%、「祖父同居」は 17.7%みられた。



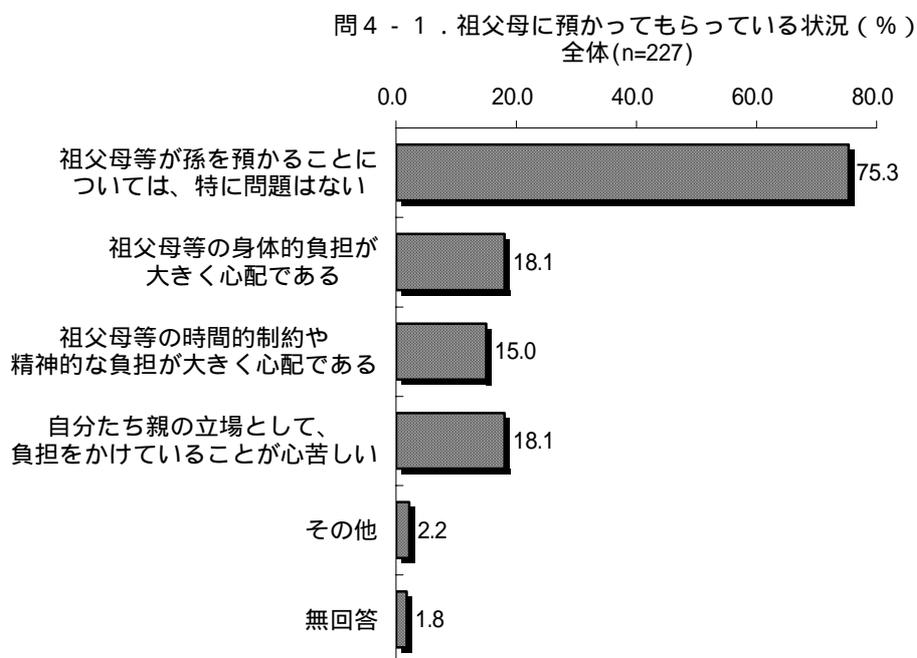
5. 親族等からの支援の状況（問4）

親族等からの支援の状況については、「緊急な時やもしくは用事の際には祖父母等の親族に預かってもらえる」が 44.4%と最も多く、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」（37.6%）がそれに続く。「いずれもない」は 9.6%みられた。



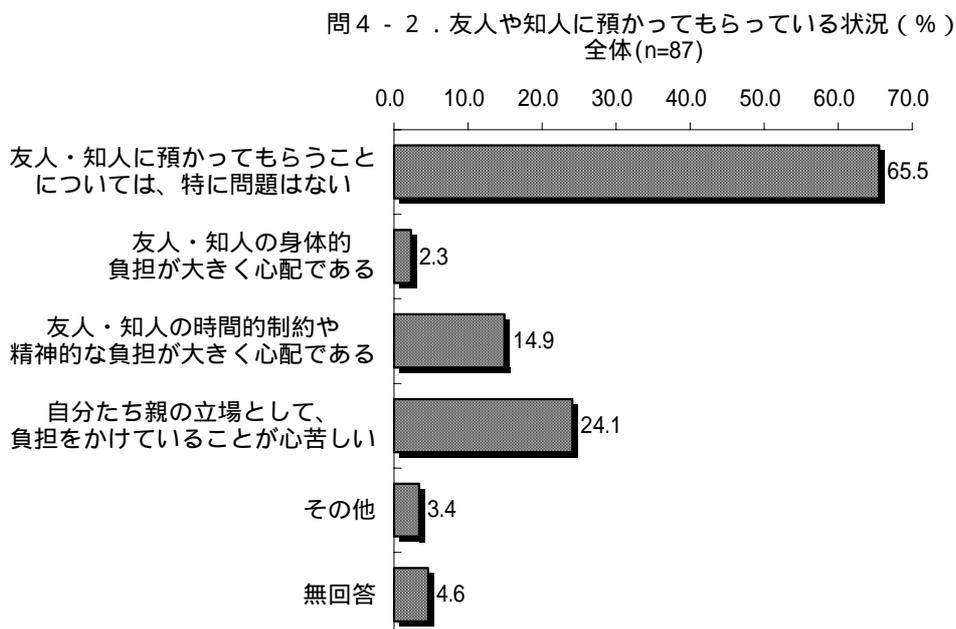
6. 祖父母に預かってもらっている状況（問 4-1）

祖父母に預かってもらう状況について「祖父母が孫を預かることについては、特に問題はない」が75.3%と7割以上を占めている。「祖父母等の身体的負担が大きく心配である」「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」がそれぞれ18.1%みられた。



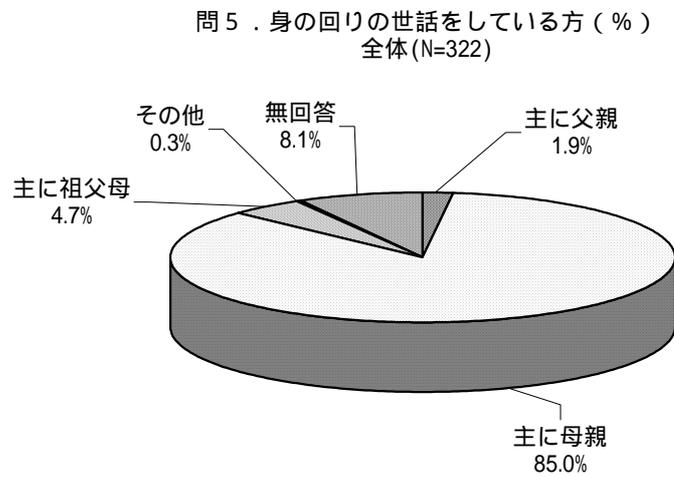
7. 友人や知人に預かってもらっている状況（問 4-2）

友人・知人に預かってもらう状況について、「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題はない」が65.5%で最も多く、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が24.1%で続く。



8 . 身の回りの世話をしている方 (問5)

身の回りの世話をしている方については、「主に母親」が 85.0%と大半を占める。「主に祖父母」は 4.7% 「主に父親」は 1.9%の内訳である。

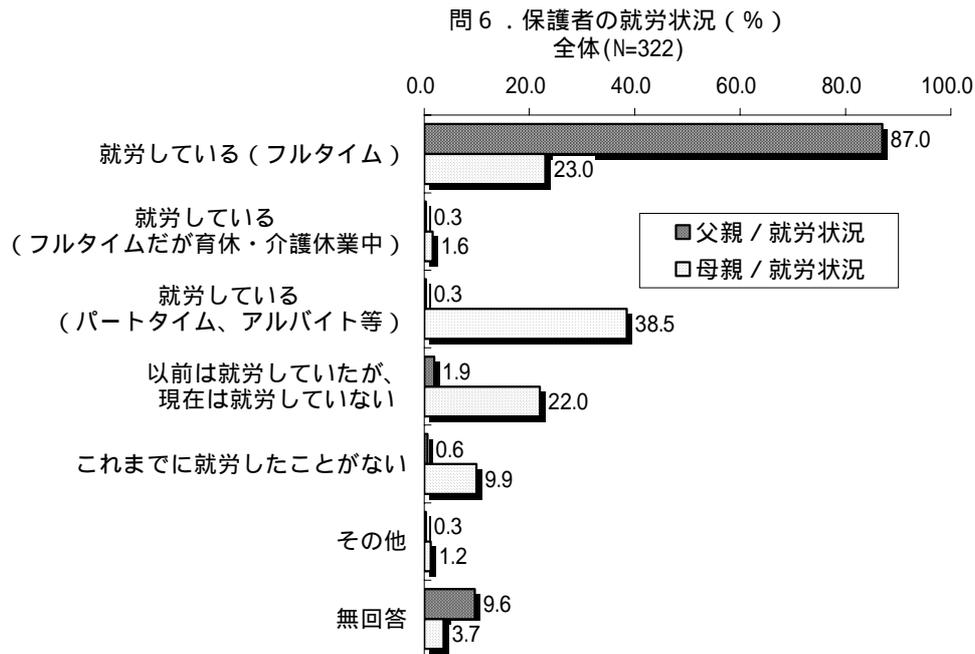


【2】保護者の就労状況等について

1. 保護者の就労状況（問6）

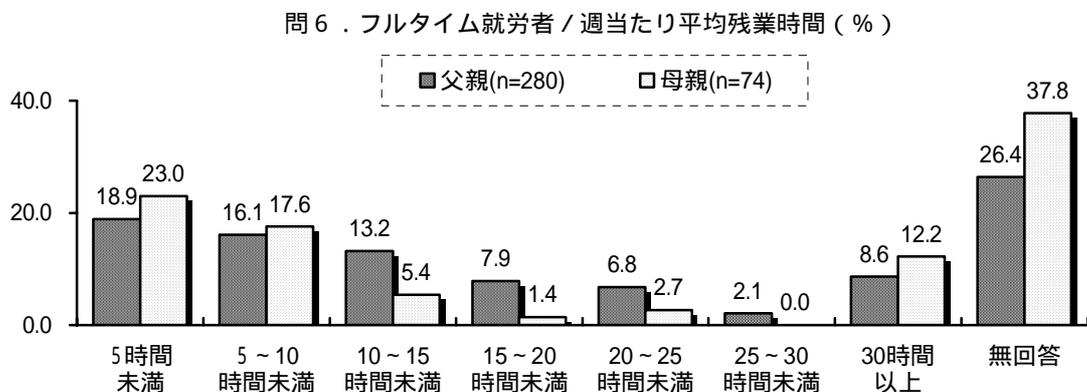
（1）就労状況

保護者の就労状況については、父親は「就労している（フルタイム）」が87.0%と主流、母親は「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が38.5%、「就労している（フルタイム）」は23.0%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が22.0%となっている。



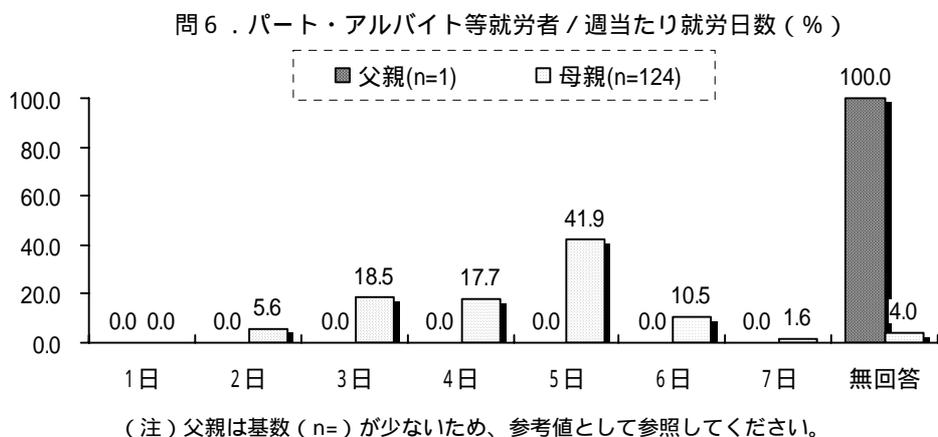
（2）フルタイム就労者 / 週あたり平均残業時間

保護者の残業状況（週あたり）については、父親は「5時間未満」が18.9%、「5～10時間未満」が16.1%、「10～15時間未満」が13.2%の順となっている。母親は「5時間未満」が23.0%で最も多く、「5～10時間未満」が17.6%となっている。



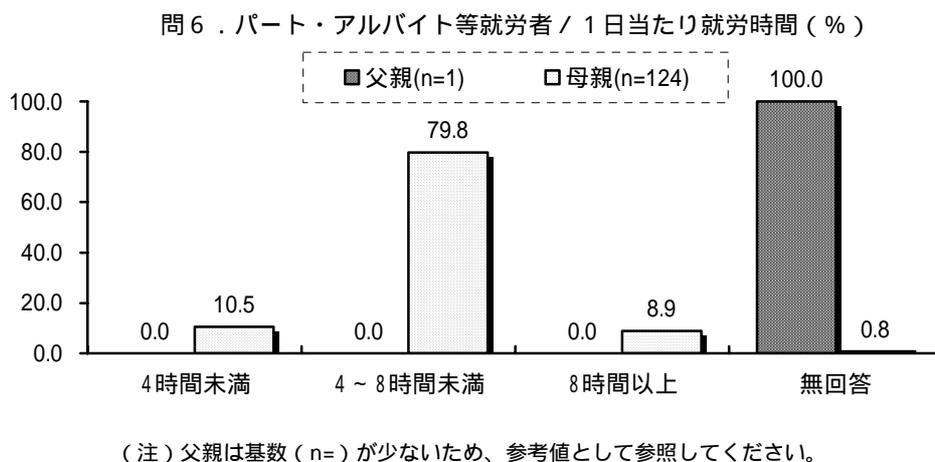
(3) パートタイム・アルバイト等 / 週当たり就労日数

パートタイム・アルバイト等就労日数については、母親は「5日」が41.9%と最も多い。



(4) パートタイム・アルバイト等 / 1日当たり就労時間

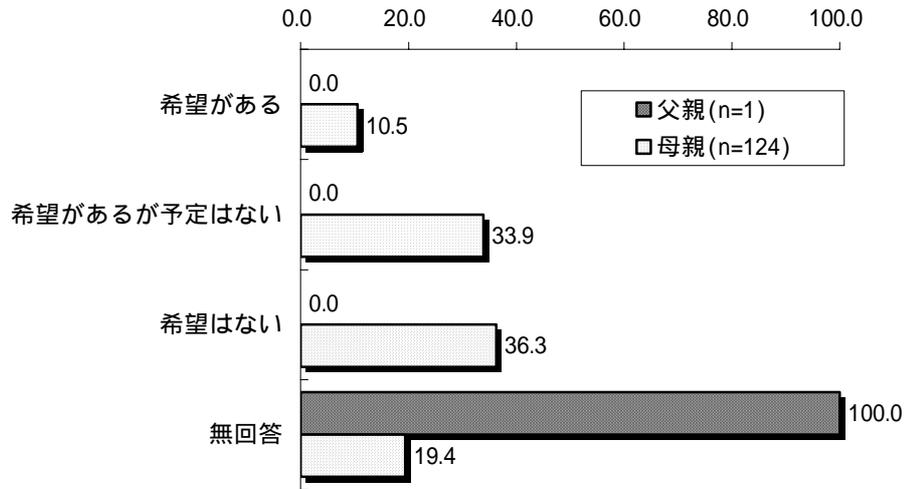
パートタイム・アルバイト等就労時間(一日当たり)については、「4時間以上8時間未満」が大半を占める。



(5) パートタイム・アルバイト等の場合 / フルタイムへの転換希望

フルタイムへの就労予定については、母親の場合「希望はない」が36.3%を占めるのに対し、「希望がある」が10.5%、「希望があるが予定はない」が33.9%で、両者合計した希望者は44.4%となっている。

問6 . パート・アルバイト等就労者 / フルタイムへの転換希望 (%)

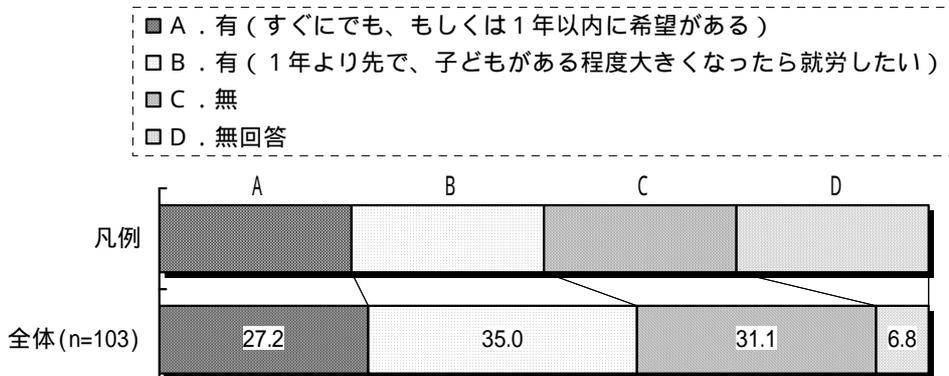


(注) 父親は基数 (n=) が少ないため、参考値として参照してください。

2 . 母親の就労希望 (問7)

母親の就労希望については、「有 (1年より先で、子どもがある程度大きくなったら就労したい)」が 35.0%で最も多く、次いで「無」が 31.1%、「有 (すぐにでも、若しくは1年以内に希望がある)」が 27.2%となっている。

問7 . 母親の就労希望 (%)

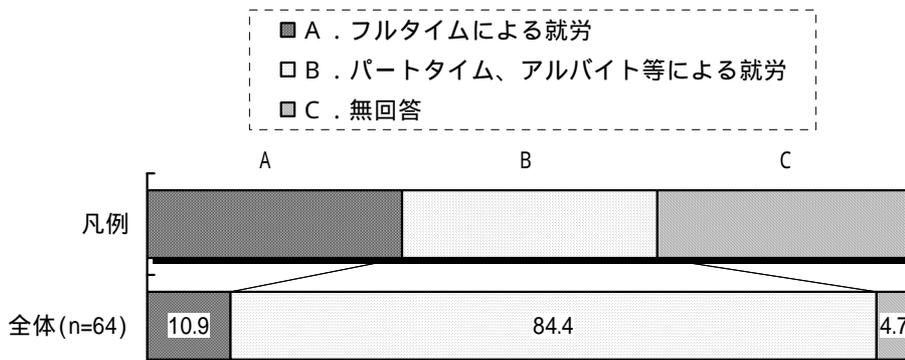


3. 母親の就労希望形態（問 7-1）

（1）母親の就労希望形態

就労希望のある母親における就労希望形態については、「パートタイム、アルバイト等による就労」が 8 割以上(84.4%)を占め主流となっており、「フルタイムによる就労」は 10.9%みられた。

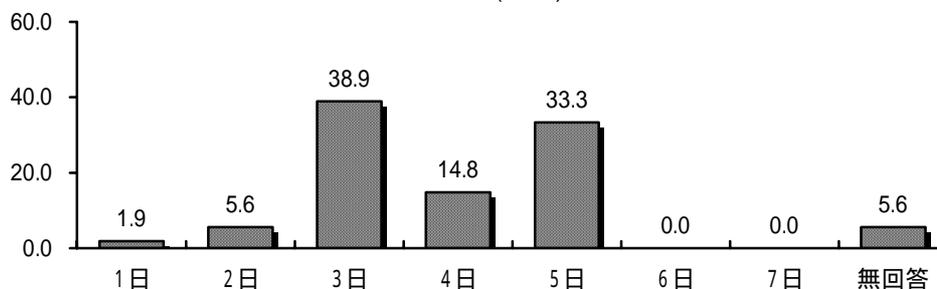
問 7 - 1 . 母親の就労希望形態 (%)



（2）パート・アルバイト希望者 / 週当たり就労希望日数

パート・アルバイト希望者における週当たり就労希望日数については、「3日」が 38.9%で最も多く、次いで「5日」(33.3%)、「4日」(14.8%)が続く。これら「3~5日(合計)」で大半(87.0%)を占める。

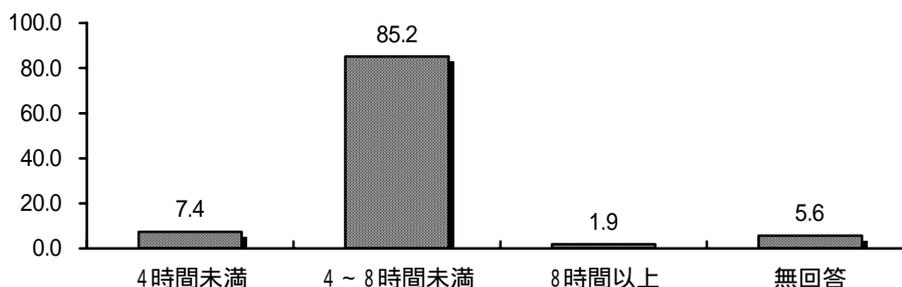
問 7 - 1 . パート・アルバイト希望者 / 週当たり就労希望日数 (%)
全体(n=54)



（3）パート・アルバイト希望者 / 1日当たり就労希望時間

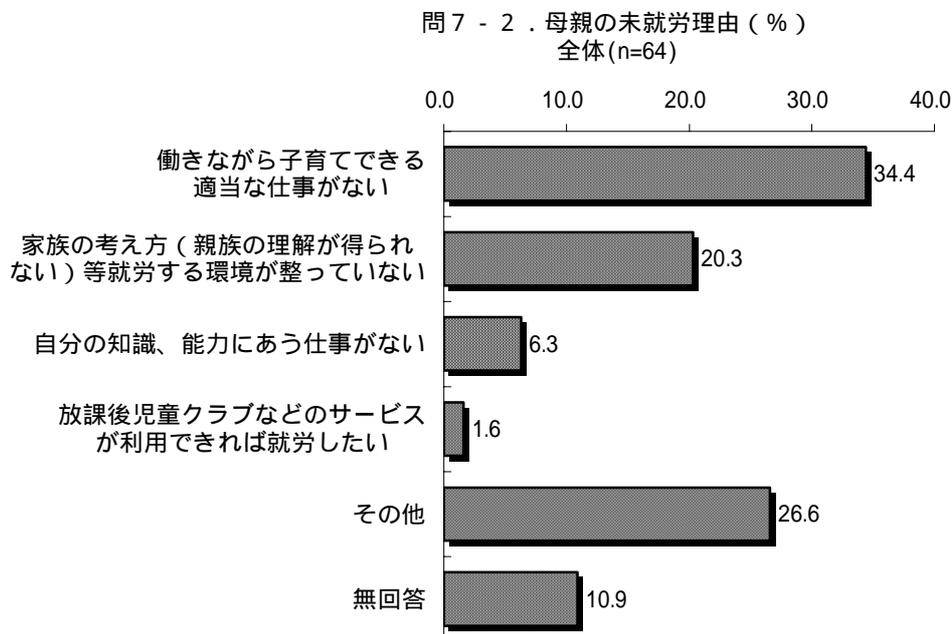
働きたい時間(1日当たり)については、「4~8時間未満」が 85.2%と大半を占めている。

問 7 - 1 . パート・アルバイト希望者 / 働きたい時間(1日当たり) (%)
全体(n=54)



4. 母親の未就労理由（問 7-2）

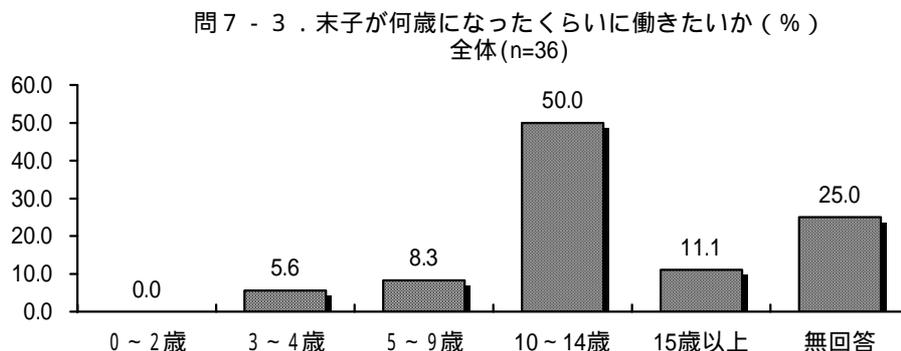
母親の未就労理由については、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」といった就労条件に関することが 34.4%と最も多く、「家族の考え方（親族の理解が得られない）等就労する環境が整っていない」が 20.3%で続いている。



なお、「その他」が 26.6%みられるが、典型的な回答として「子どもが小さいうちは、家庭で育児に専念したい」といった内容に類する回答が多数あげられた。

5. 末子が何歳になったくらいに働きたいか（問 7-3）

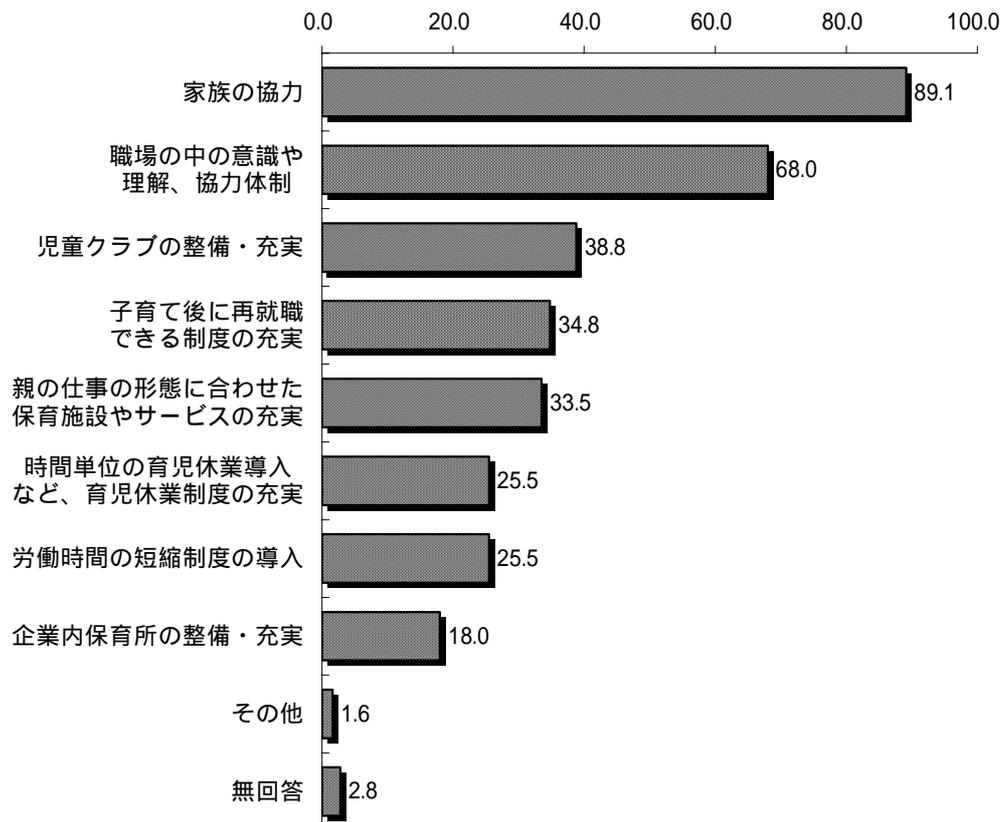
上記設問において「有（1年より先で、子どもがある程度大きくなったら働きたい）」への回答者における、「末子が何歳になったくらいに働きたいか」については「10～14歳」が 50.0%で最も多く、「15歳以上」が 11.1%で続いている。



6. 仕事と子育てを両立するために必要と思うことについて（問8）

仕事と子育てを両立するために必要と思うことについては、「家族の協力」が89.1%と最も多く、以下「職場の中の意識や理解、協力体制」（68.0%）、「児童クラブの整備・充実」（38.8%）、「子育て後に再就職できる制度の充実」（34.8%）、「親の仕事や形態に合わせた保育施設やサービスの充実」（33.5%）などの順となっている。

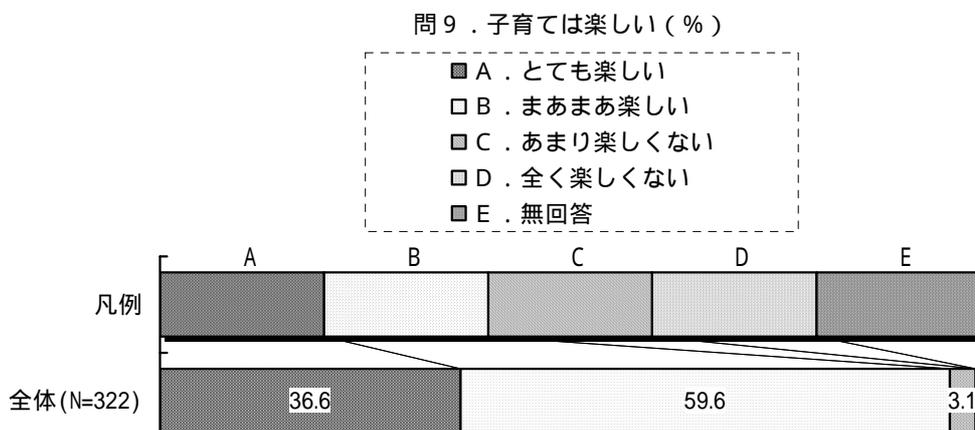
問8. 仕事と子育てを両立するために必要と思うことについて（%）
全体(N=322)



【3】子育て全般について

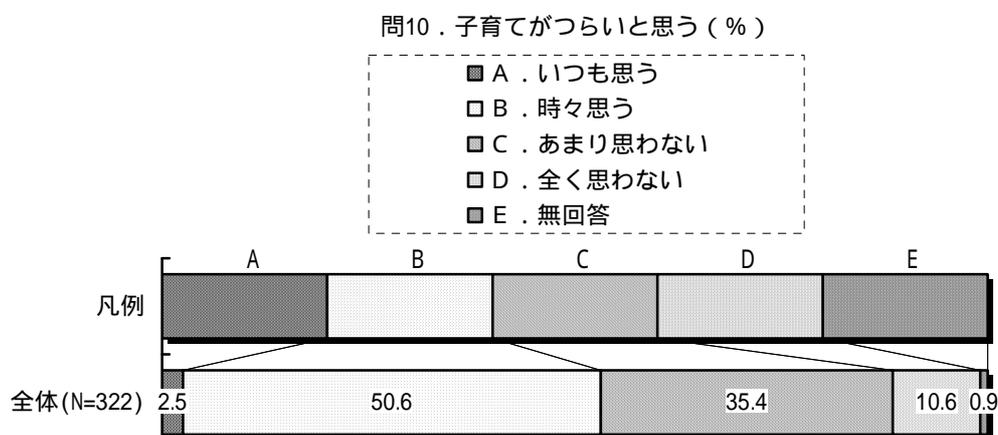
1. 子育ての楽しさ（問9）

子育ての楽しさについては、「まあまあ楽しい」が59.6%と最も多く、「とても楽しい」が36.6%となっており、9割以上（96.2%）の人は楽しいと感じている。



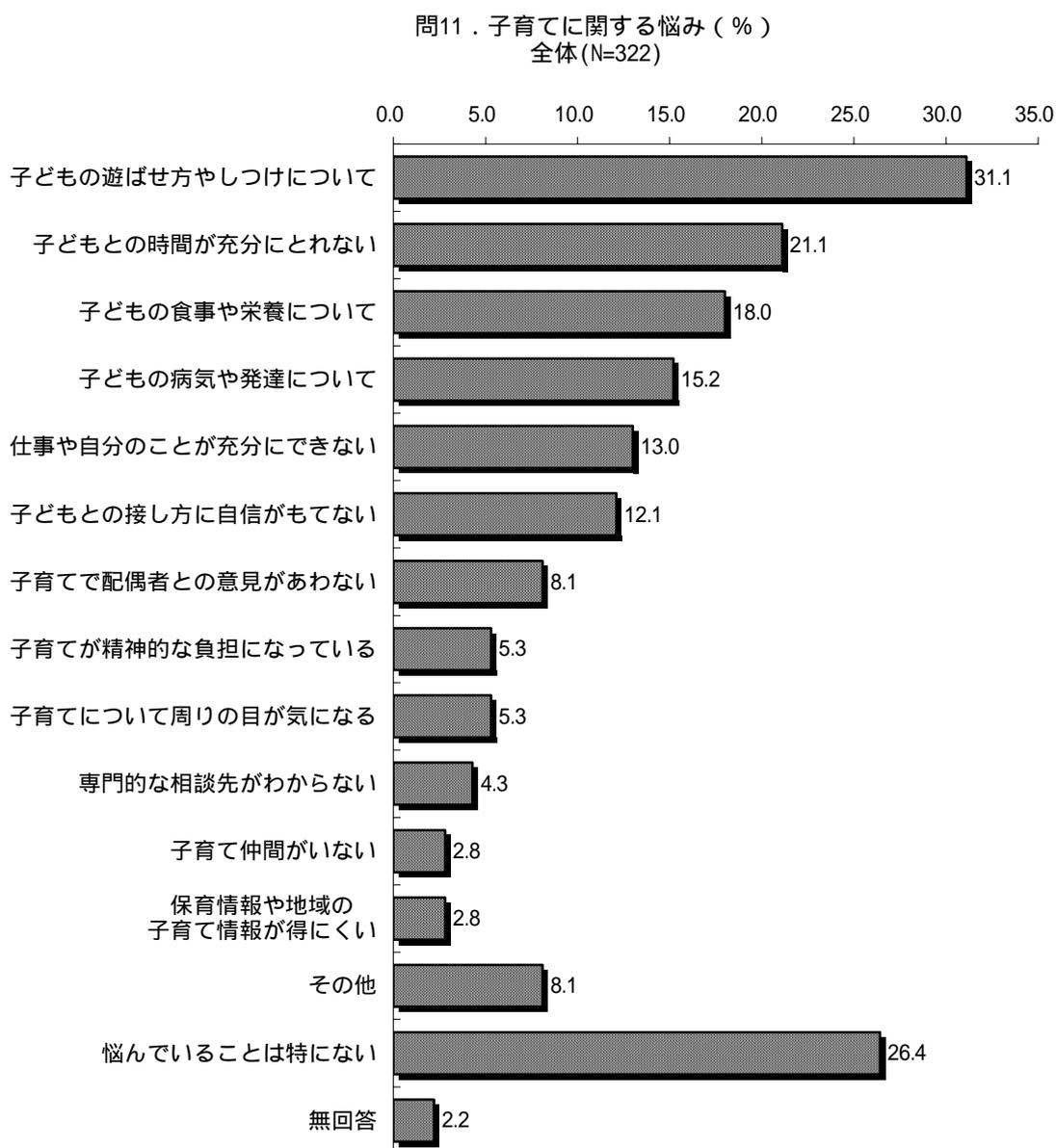
2. 子育てのつらさ（問10）

子育てのつらさについては、「思う」が2.5%、「時々思う」が50.6%となっているのに対し、「あまり思わない」が35.4%、「全く思わない」が10.6%と、つらく思う人がやや多くなっている。



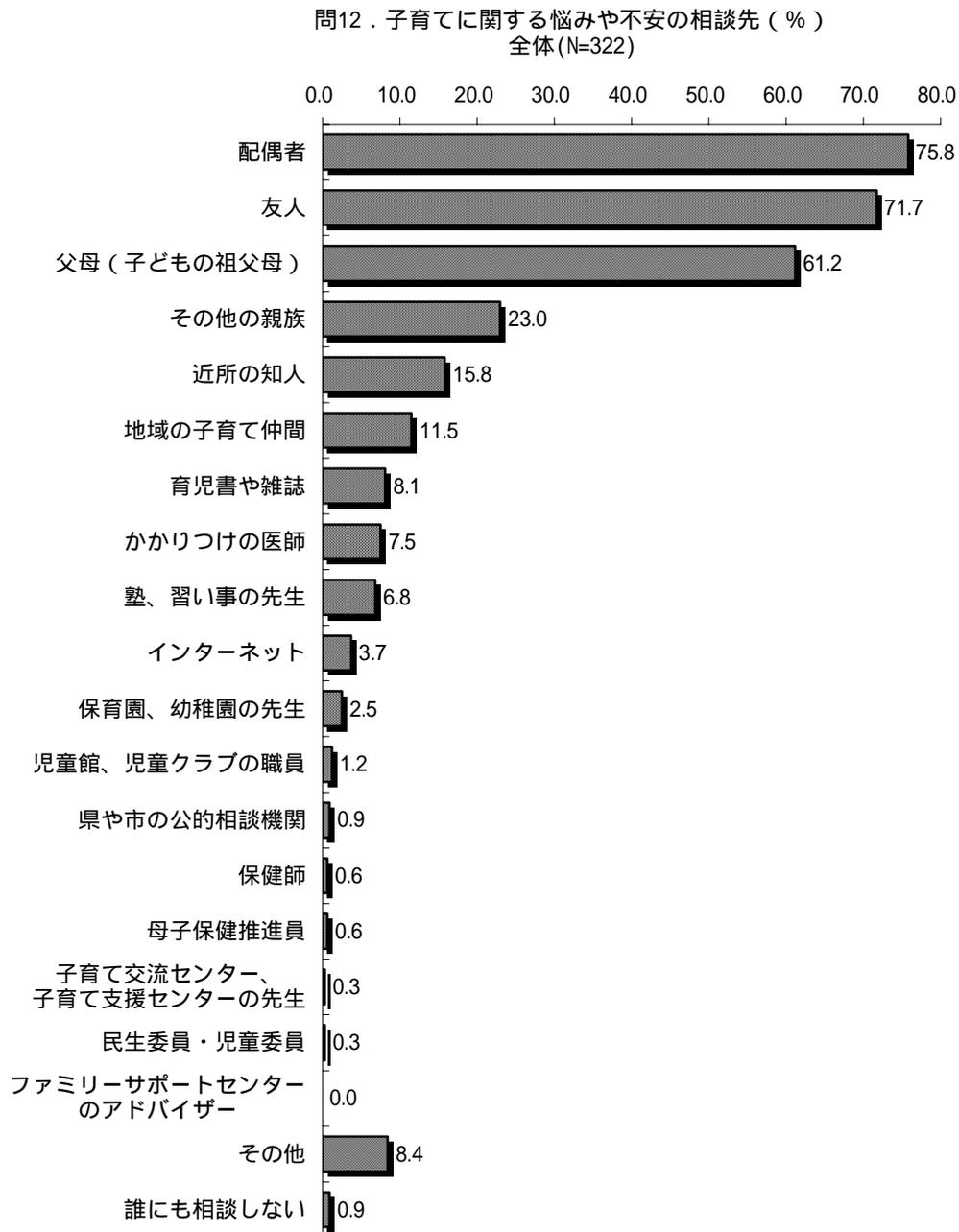
3. 子育てに関する悩み（問11）

子育てに関する悩みについては、「悩んでいることは特にない」が26.4%であることから、およそ7割程度の保護者に何らかの悩みや気になることがあるとみられる。悩んでいること・気になることは「子どもの遊ばせ方やしつけについて」が31.1%と最も多く、次いで「子どもとの時間が充分にとれない」(21.1%)、「子どもの食事や栄養について」(18.0%)、「子どもの病気や発達について」(15.2%)などの順となっている。



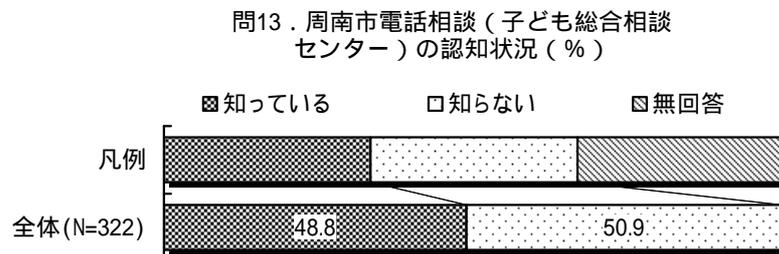
4. 子育てに関する悩みや不安の相談先（問12）

子育てに関する悩みや不安の相談先については、「配偶者」が75.8%と最も多く、次いで「友人」が71.7%、「父母（子どもの祖父母）」が61.2%となっており、この3者が主な相談先となっている。



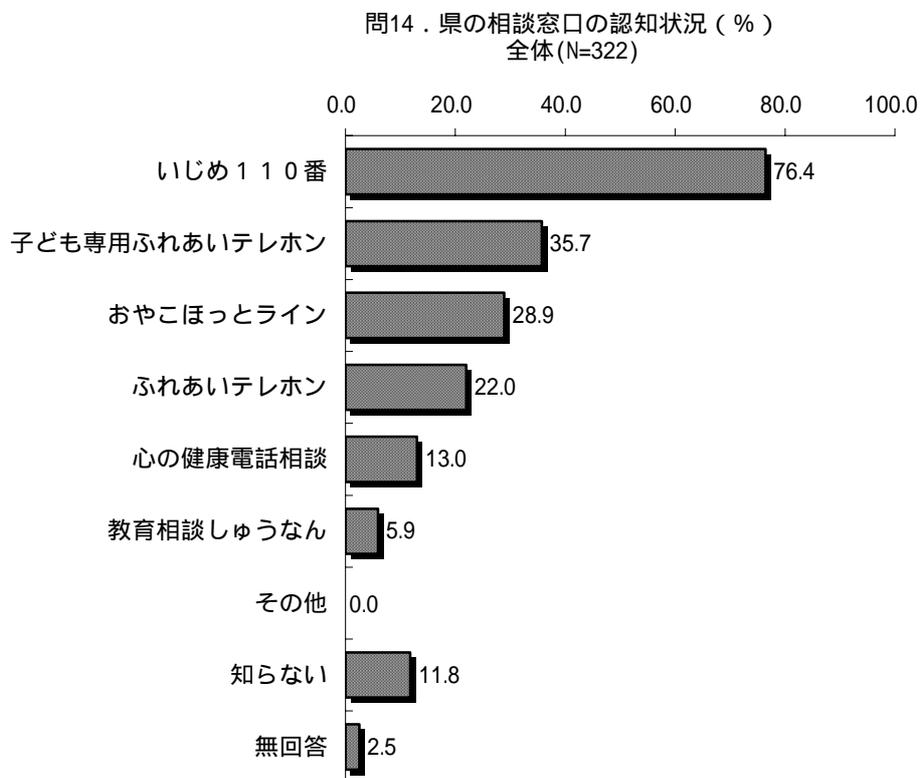
5. 「子ども総合相談センター」認知状況（問 13）

「子ども総合相談センター」については、約半数（48.8%）の認知状況である。



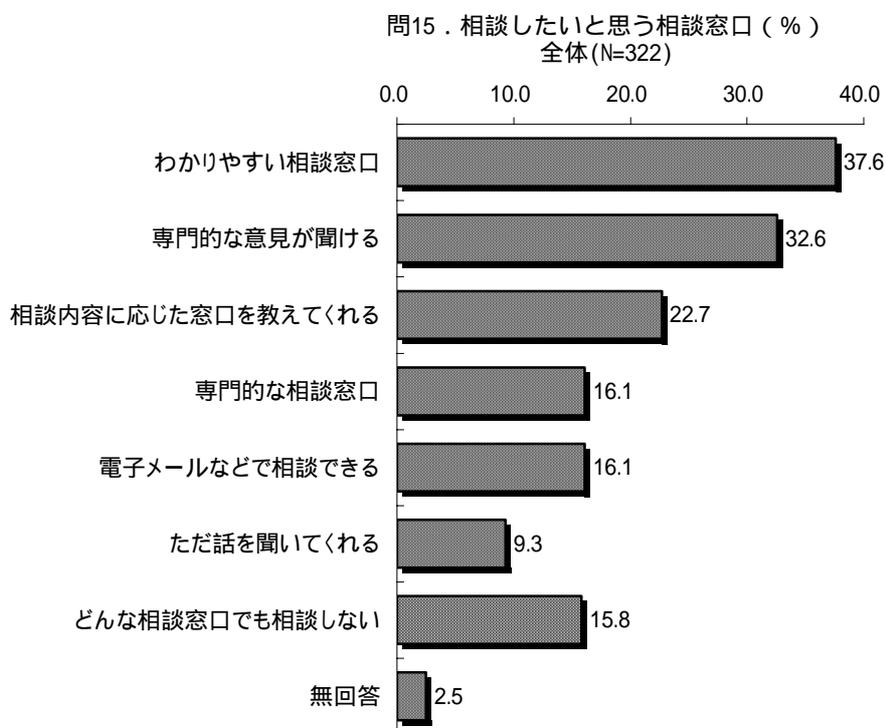
6. 県の相談窓口の認知状況（問 14）

県の相談窓口の認知状況は、「いじめ110番」が76.4%で最も多い。次いで「子ども専用ふれあいテレホン」が35.7%、「おやこほっとライン」(28.9%)と続く。



7. 利用したいと思う相談窓口（問 15）

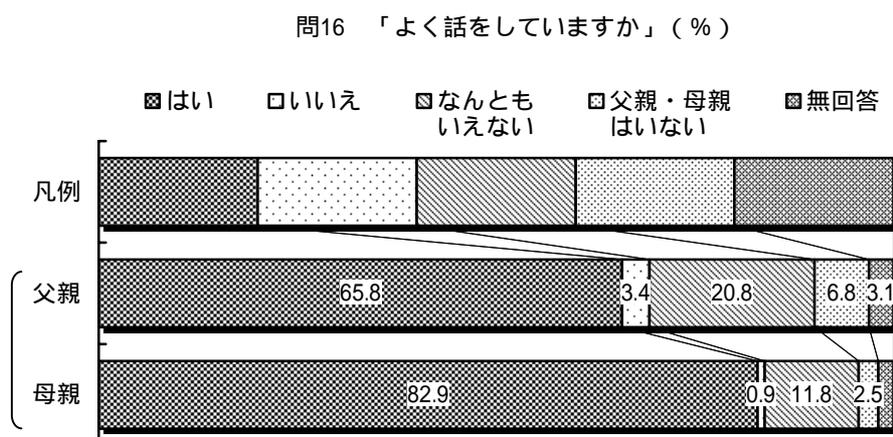
利用したいと思う相談窓口は、「わかりやすい相談窓口」が 37.6%で最も多く、以下「専門的な意見が聞ける」（32.6%）、「相談内容に応じた窓口を教えてくれる」（22.7%）などの順で、相談窓口の希望は多様化している。



8. 親子の接し方の状況（問 16）

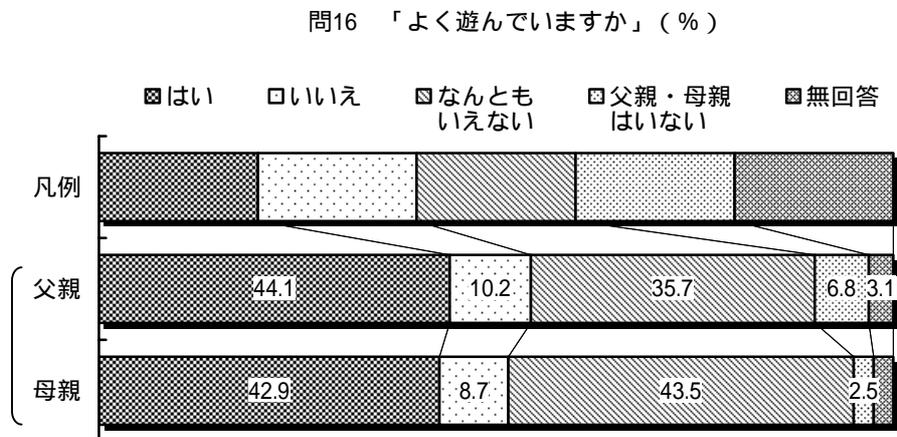
(1) よく話をしていますか

子どもとよく話しているかについては、「はい」が父親は 65.8%、母親が 82.9%と、母親で多くなっている。



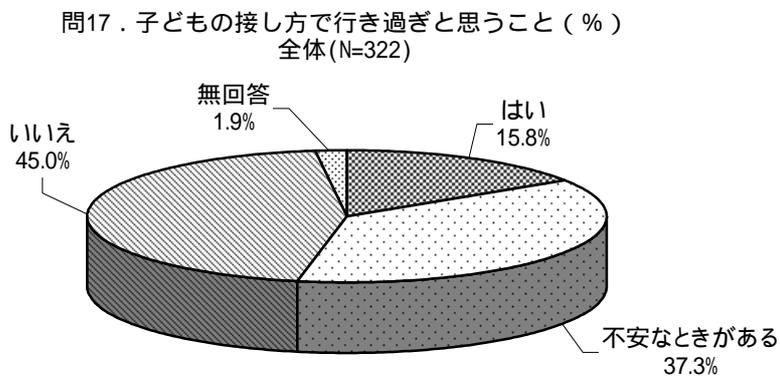
(2) よく遊んでいますか

子どもとよく遊んでいるかについては、「はい」が父親は44.1%、母親が42.9%となっている。母親は「なんともいえない」が43.5%で最も多い。



9. 子どもとの接し方で行き過ぎと思うこと (問17)

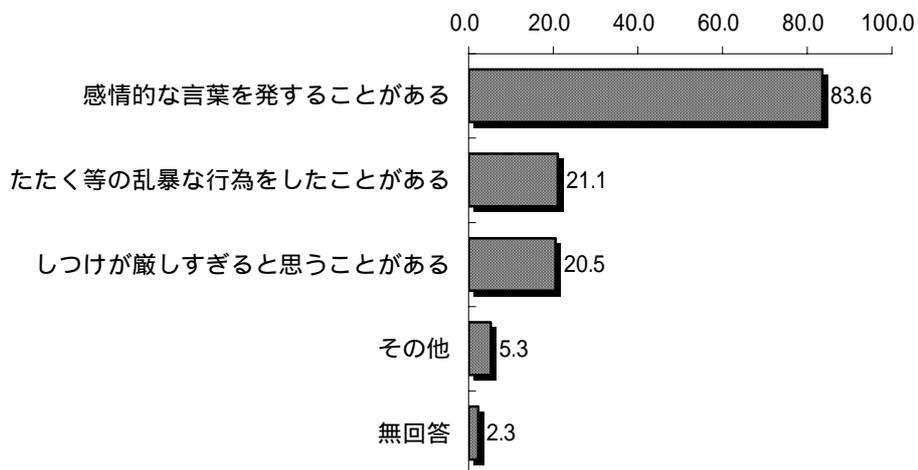
子どもとの接し方で行き過ぎと思うことは「不安なときがある」が37.3%で最も多く、「はい」の15.8%の合計で過半数(53.1%)が行き過ぎを意識している。「いいえ」は45.0%となっている。



10. 行き過ぎと思う内容 (問 17-1)

子どもとの接し方で行き過ぎと思うことは「感情的な言葉を発することがある」が 83.6%で最も多いが、「たたく等の乱暴な行為をしたことがある」(21.1%)、「しつけが厳しすぎると思うことがある」(20.5%)もそれぞれ2割程度みられた。

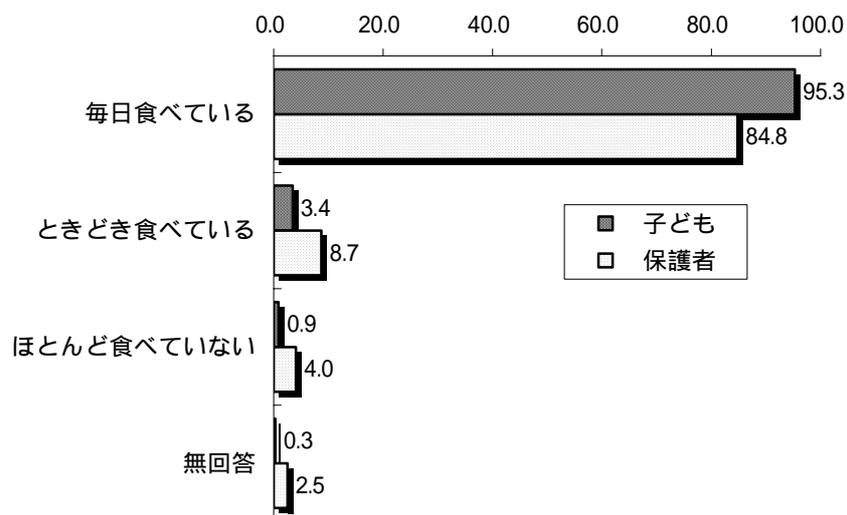
問17 - 1 . 子どもとの接し方で行き過ぎと思うこと (%)
全体(n=171)



11. 毎朝の食事について (問 18)

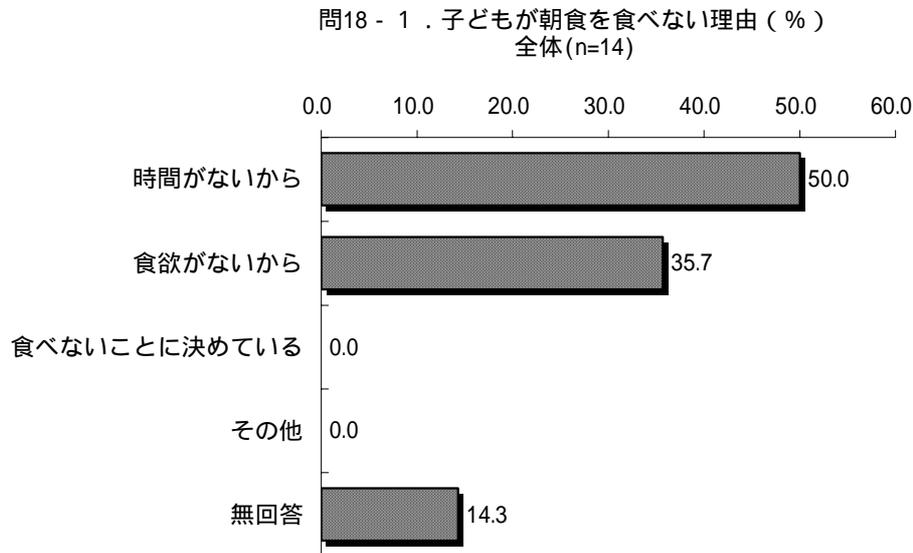
毎朝の食事は「毎日食べている」が子ども全体で 95.3%を占める。保護者は 84.8%が「毎日食べている」としている。

問18 . 毎朝の食事について (%)
全体(N=322)



12. 子どもが朝食を食べない理由（問 18-1）

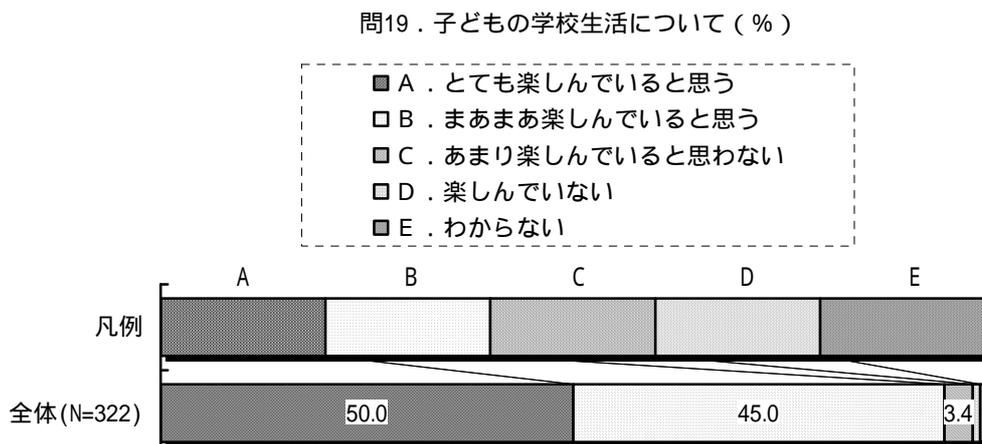
子どもが朝食を食べない理由は「食欲がないから」が 50.0%、「時間がないから」が 35.7% となっている。



【4】子どもの健全育成について

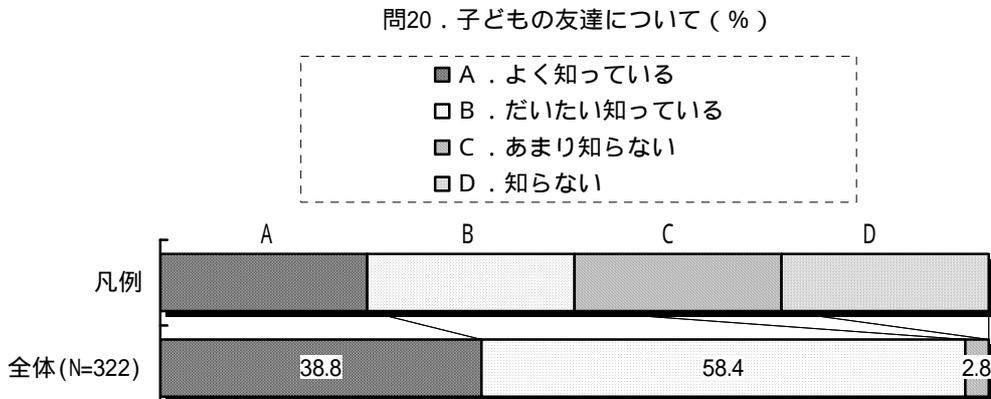
1. 子どもの学校生活について（問 19）

子どもの学校生活については、「とても楽しんでいると思う」が 50.0%と最も多く、「まあまあ楽しんでいると思う」が 45.0%となっており、9 割以上（95.0%）で楽しんでいると感じている。



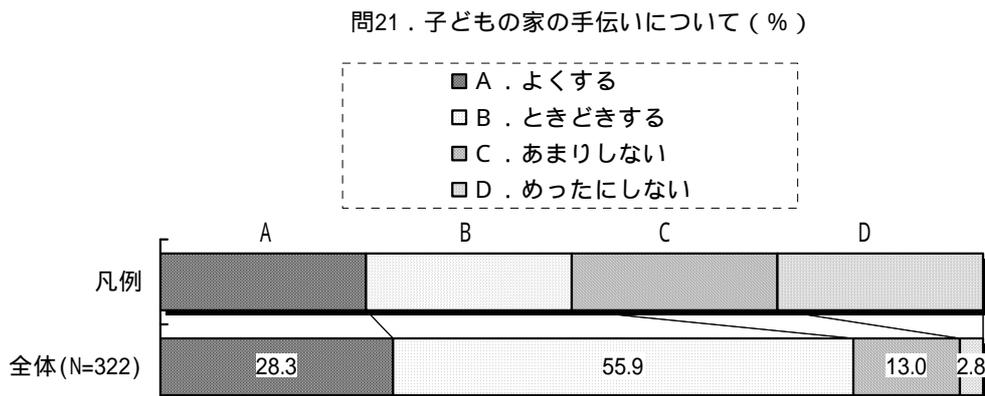
2. 子どもの友達について（問 20）

子どもの友達については、「だいたい知っている」が 58.4%と最も多く、「よく知っている」が 38.8%となっており、合計 9 割以上（97.2%）はおおむね知っているとしている。



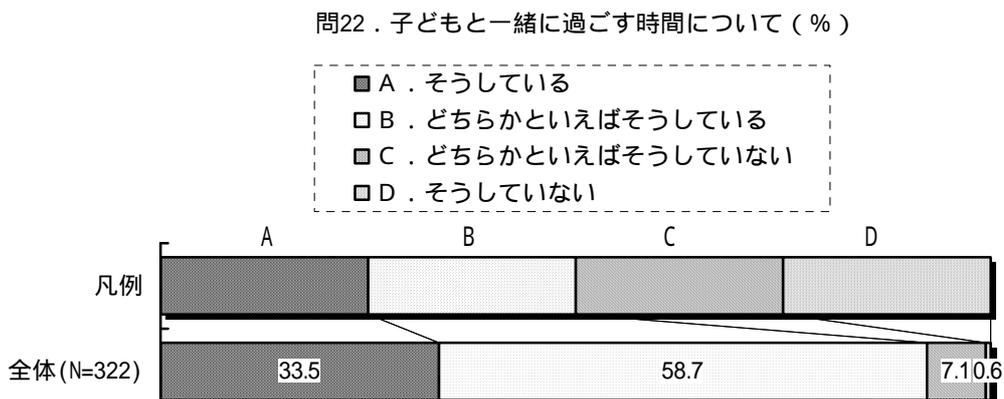
3. 子どもの家の手伝いについて（問 21）

子どもの家の手伝いについては、「ときどきする」が 55.9%と最も多く、「よくする」が 28.3%となっており、8 割以上（84.2%）は家の手伝いをしている。



4. 子どもと一緒に過ごす時間について（問 22）

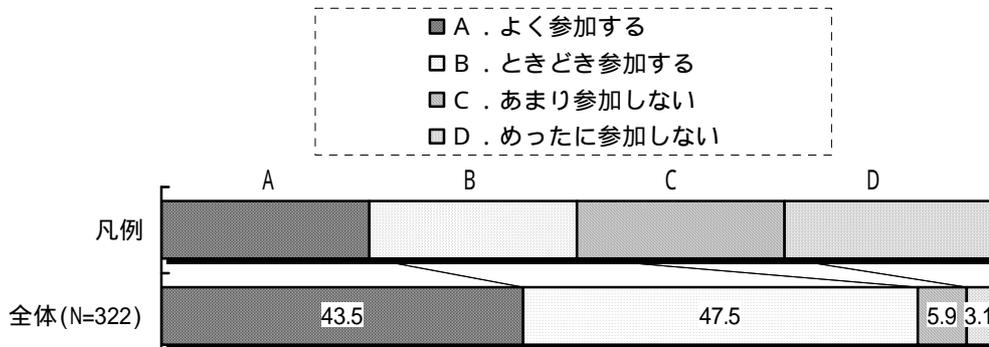
子どもと一緒に過ごす時間については、「どちらかといえばそうしている」が 58.7%と最も多く、「そうしている」が 33.5%となっており、合計 9 割以上（92.2%）は一緒に過ごすように意識している。



5. 学校や地域の行事への参加について（問 23）

学校や地域の行事への参加については、「ときどき参加する」が 47.5%と最も多く、「よく参加する」が 43.5%となっており、合計 9 割以上（91.0%）は何らかの形で参加している。

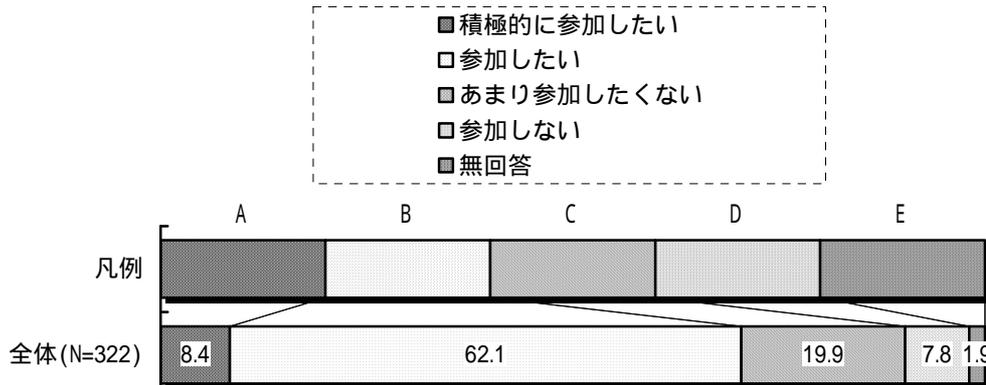
問23. 学校や地域行事への参加状況について（%）



6. イベントやまつりへの参加希望（問 24）

イベントやまつりへの参加希望については、「参加したい」が 62.1%と最も多く、「積極的に参加したい」が 8.4%となっており、合計 7 割（70.5%）に希望がみられた。

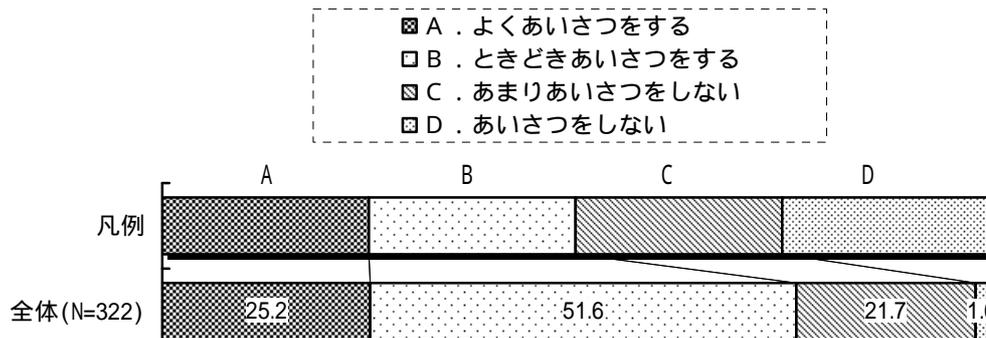
問24. イベントや祭りへの参加希望について（%）



7. 地域の子どもの挨拶について（問 25）

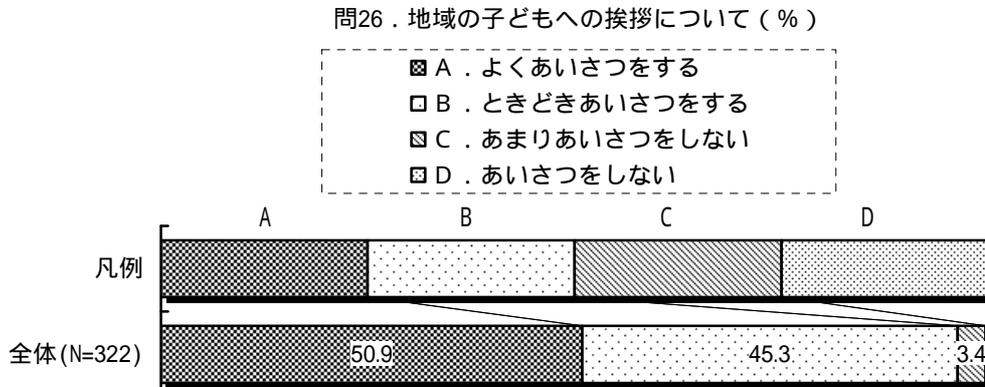
地域の子どもの挨拶については、「ときどきあいさつをする」が 51.6%と最も多く、「よくあいさつをする」が 25.2%となっており、7 割以上（76.8%）は挨拶をすると感じている。

問25. 地域の子どもの挨拶について（%）



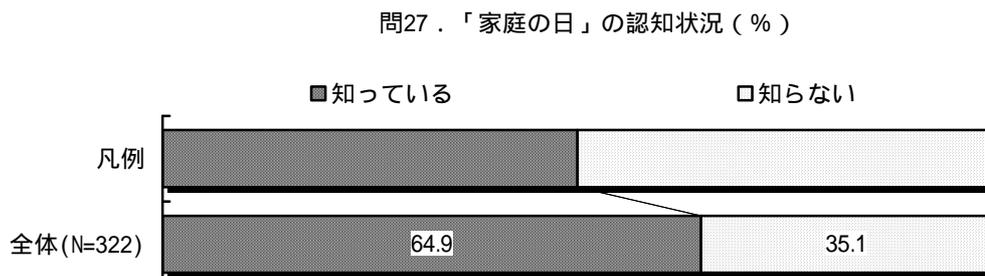
8. 地域の子どもへの挨拶について（問 26）

地域の子どもへの挨拶については、「よくあいさつをする」が 50.9%と最も多く、「ときどきあいさつをする」が 45.3%となっており、9 割以上（96.2%）の人は子どもへ挨拶をしている。



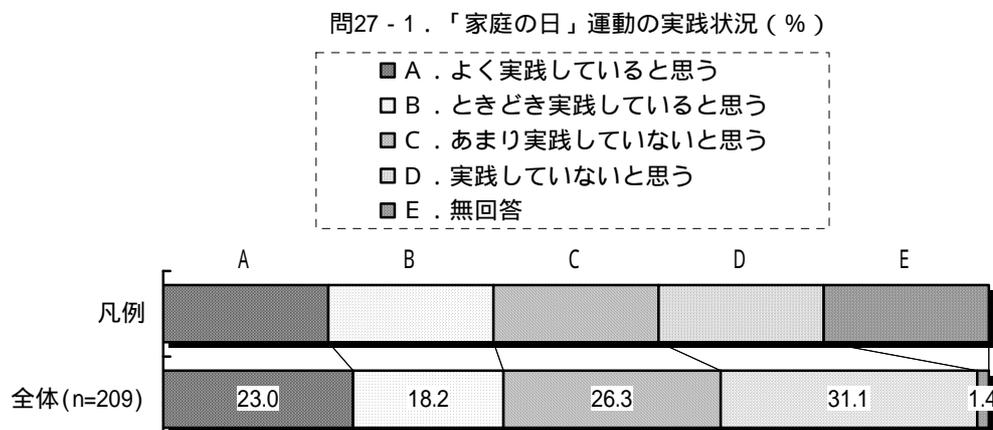
9. 「家庭の日」（毎月第3日曜日）を推進する県民運動について（問 27）

「家庭の日」（毎月第3日曜日）を推進する県民運動については、「知っている」は 64.9%、「知らない」は 35.1%の内訳となっている。



10. 「家庭の日」運動の実践について（問 27-1）

「家庭の日」運動の実践については、「実践していないと思う」が 31.1%と最も多く、「あまり実践していないと思う」が 26.3%となっており、6 割近く（57.4%）は実践できていないと感じている。「よく実践していると思う」は 23.0%、「ときどき実践していると思う」は 18.2%で、実践していると感じている割合の合計は 41.2%となっている。

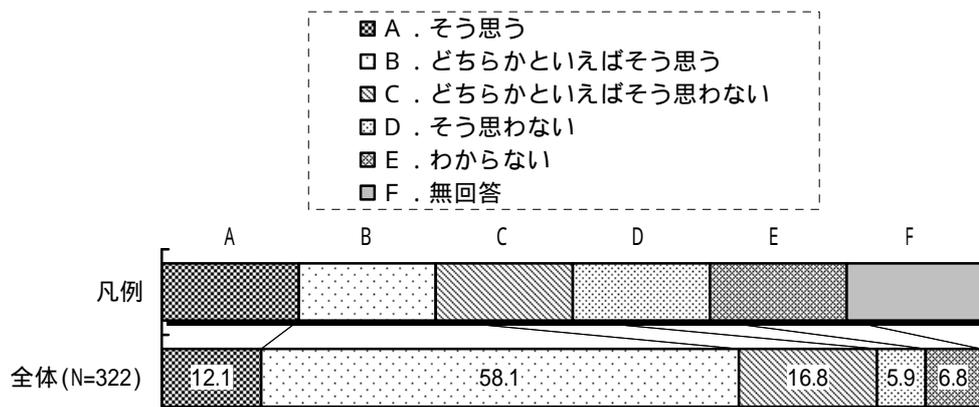


【5】子どもの犯罪被害防止（安全対策）について

1. 地域の安全性について（問28）

地域の安全性については、「どちらかといえばそう思う」が58.1%と最も多く、「そう思う」が12.1%となっており、合計7割（70.2%）は安全性を認識している。

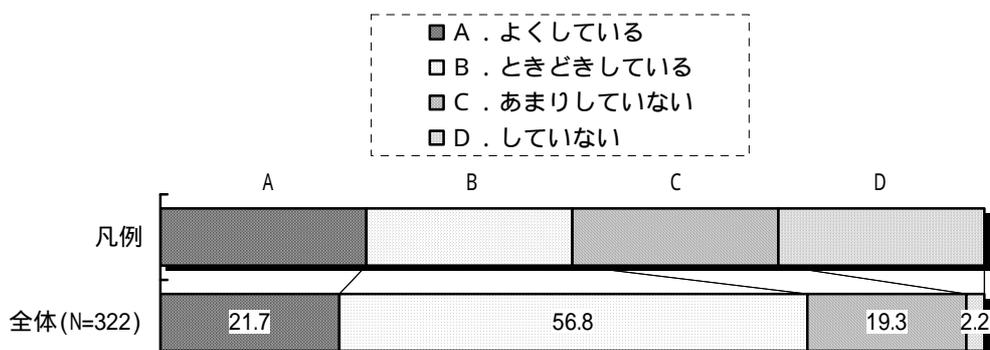
問28. 地域の安全について（%）



2. 登下校時の安全についての子どもとの会話について（問29）

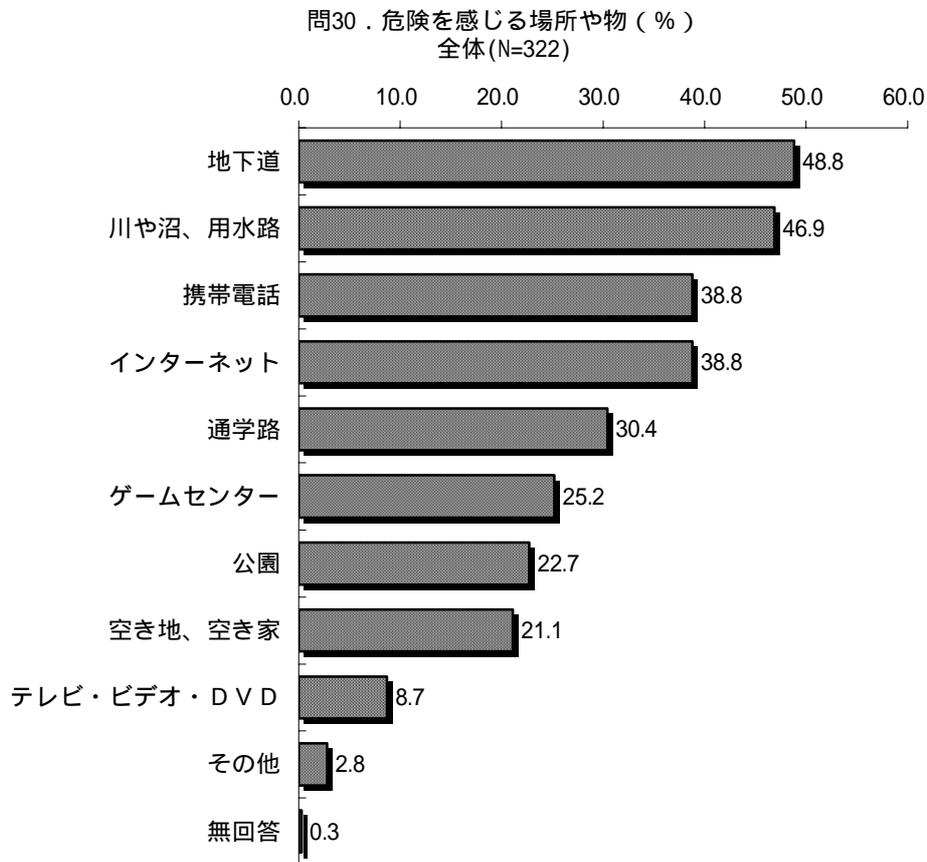
登下校時の安全についての子どもとの会話については、「ときどきしている」が56.8%と最も多く、「よくしている」が21.7%となっており、合計8割近く（78.5%）はふだん会話をしている。

問29. 登下校時の安全についての子どもとの会話（%）



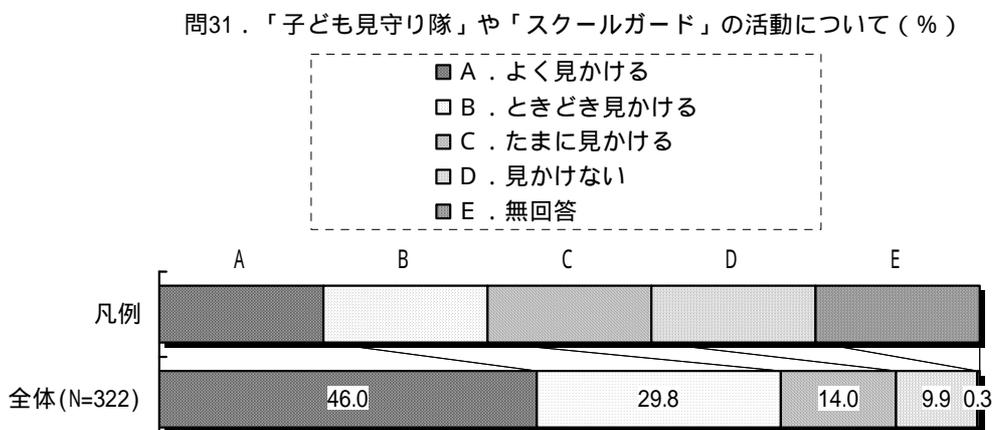
3. 危険を感じる場所や物について（問 30）

危険を感じる場所や物については、「地下道」が 48.8%と最も多く、次いで「川や沼、用水路」が 46.9%、「携帯電話」「インターネット」がそれぞれ 38.8%などの順となっている。



4. 「子ども見守り隊」や「スクールガード」活動について（問 31）

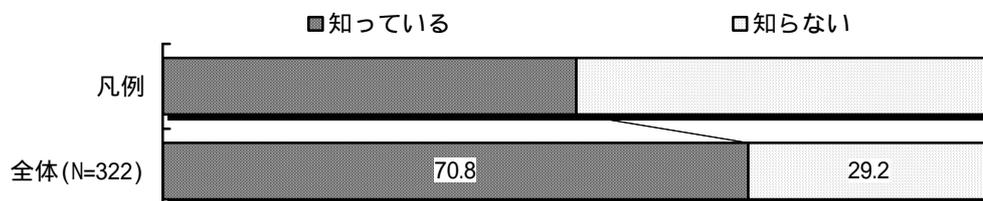
「子ども見守り隊」や「スクールガード」活動については、「よく見かける」が 46.0%と最も多く、「ときどき見かける」が 29.8%となっており、合計 7 割以上（75.8%）は見かける機会が多くなっている。



5. 「地域のおじさん、おばさん運動」の認知について（問 32）

「地域のおじさん、おばさん運動」の認知については、「知っている」が 70.8%、「知らない」が 29.2%の内訳となっている。

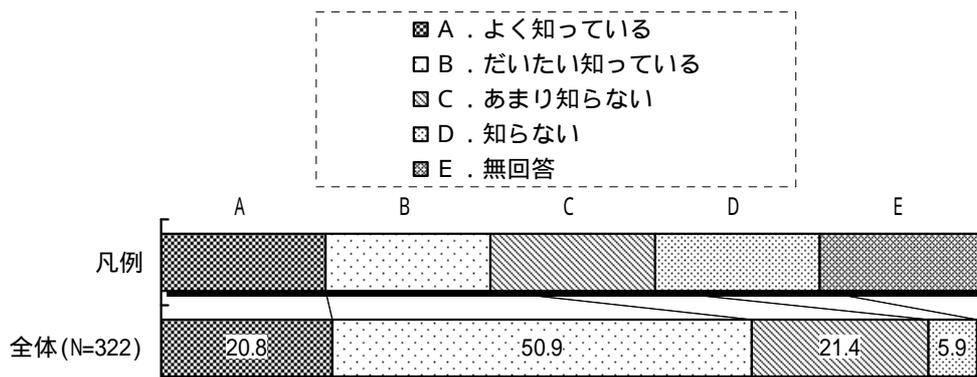
問32. 「地域のおじさん、おばさん運動」の認知状況（%）



6. 「こども110番の家」の認知について（問 33）

「こども110番の家」の認知については、「だいたい知っている」が 50.9%と最も多く、「よく知っている」が 20.8%となっており、7割以上（71.7%）は認知している。

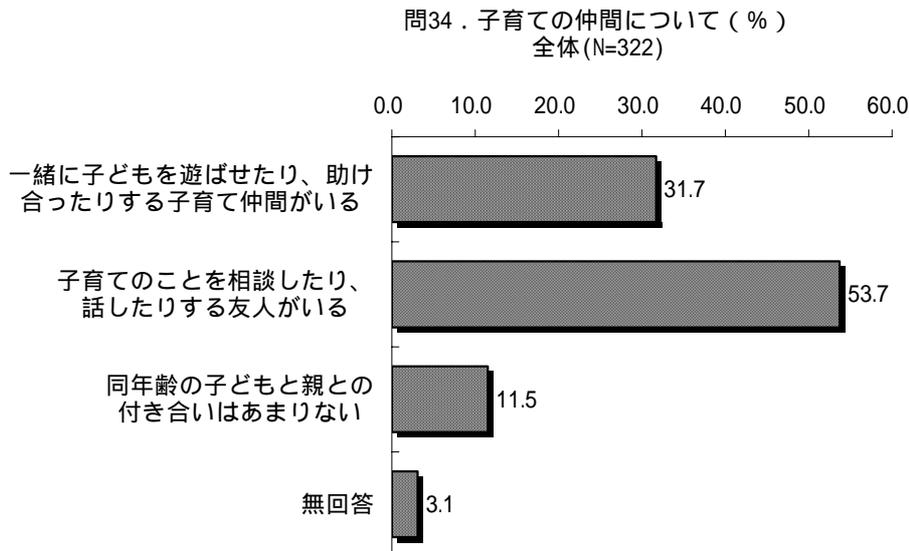
問33. 「こども110番の家」の認知状況（%）



【6】地域における子育て支援について

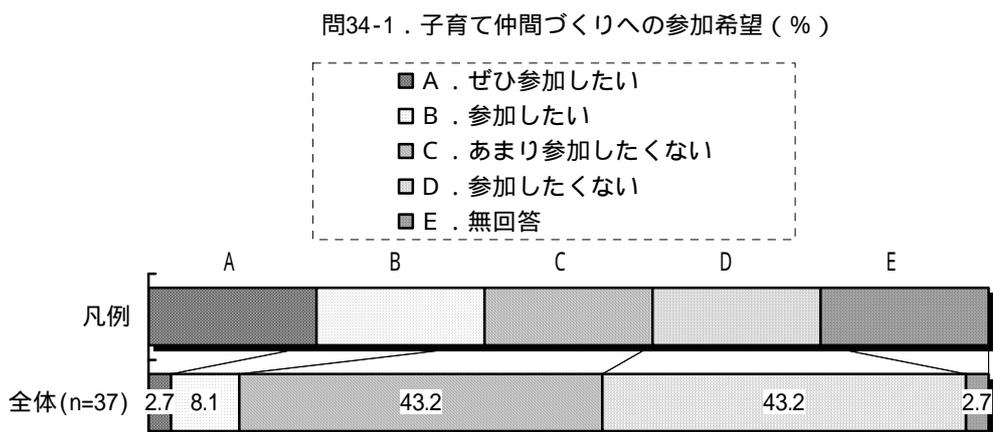
1. 親同士のつきあい、育児のグループ等の子育ての仲間について（問34）

親同士のつきあい、育児のグループ等の子育ての仲間については、「子育てのことを相談したり、話したりする友人がいる」が53.7%と最も多く、「一緒に子どもを遊ばせたり、助け合ったりする子育て仲間がいる」が31.7%となっている。



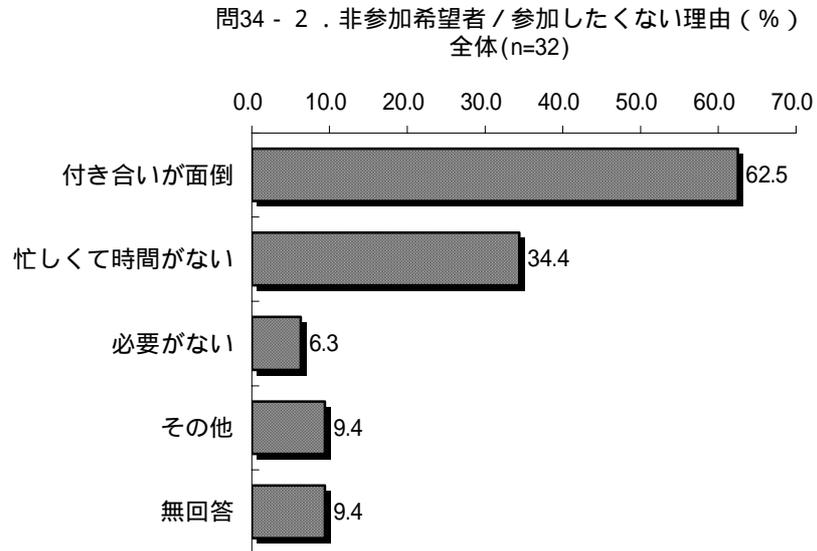
2. 子育ての仲間作りへの参加希望（問34-1）

子育ての仲間づくりの機会については、「あまり参加したくない」「参加したくない」がそれぞれ43.2%となっており、参加希望の「参加したい」「ぜひ参加したい」の合計は1割（10.8%）と少ない。



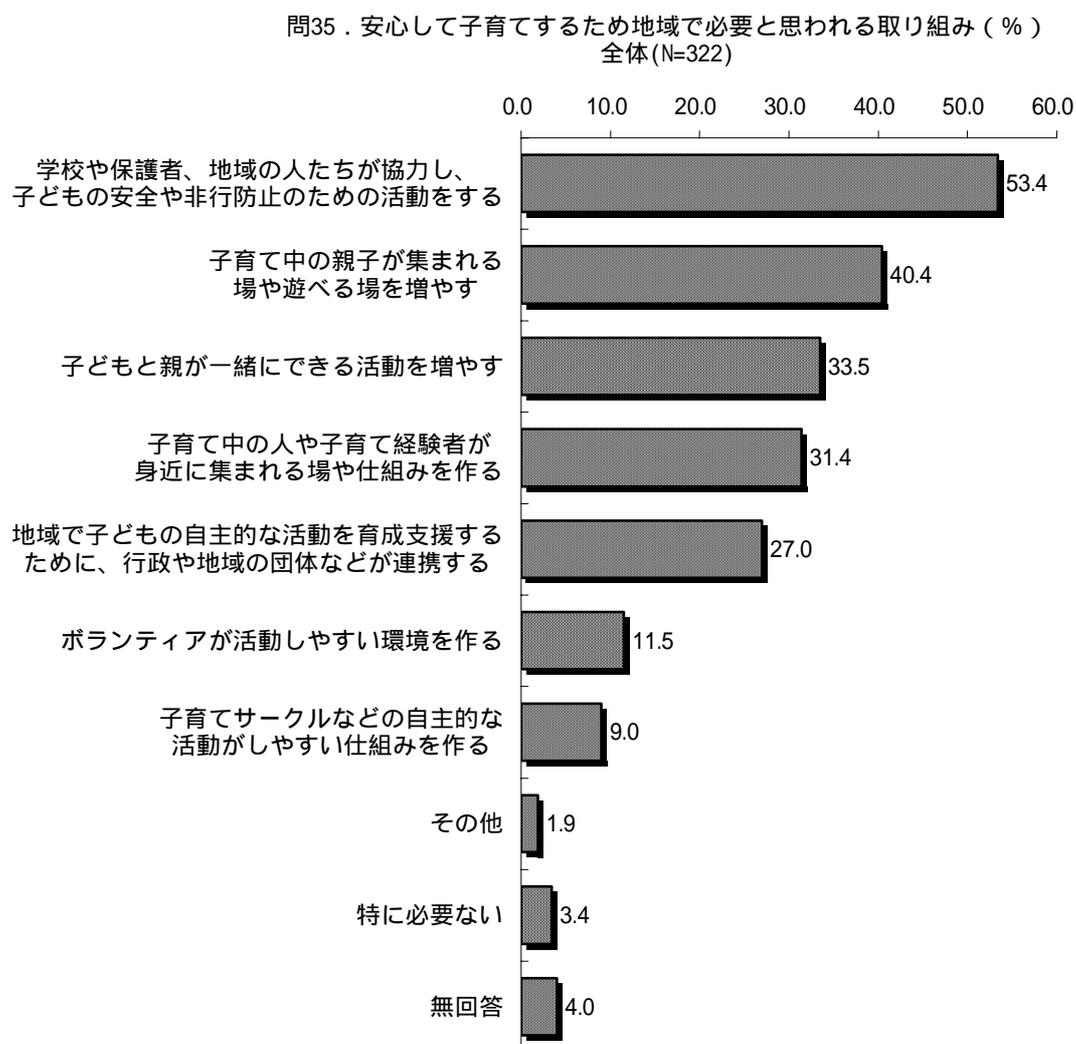
3. 参加したくない理由（問34-2）

参加したくない理由については、「付き合いが面倒」が62.5%と最も多く、次いで「忙しくて時間がない」が34.4%となっている。



4. 安心して子育てをするために必要と思う取組（問35）

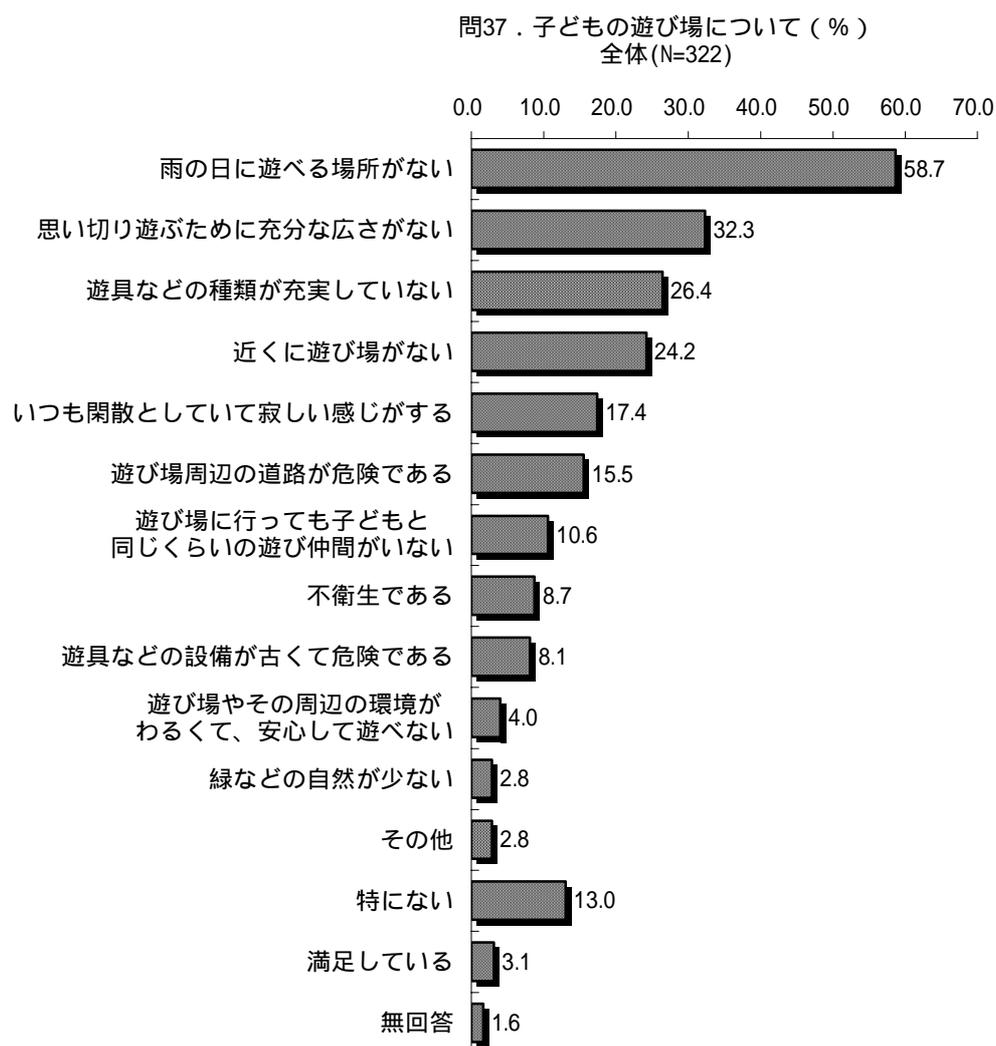
地域で必要と思われる取組については、「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止のために活動をする」が53.4%と最も多く、次いで「子育て中の親子が集まれる場や遊べる場を増やす」（40.4%）、「子どもと親と一緒にできる活動を増やす」（33.5%）、「子育て中の人や子育て経験者が身近に集まれる場や仕組みを作る」（31.4%）などが続く。



【7】子どもの遊び場について

1. 子どもの遊び場について感じる事(問37)

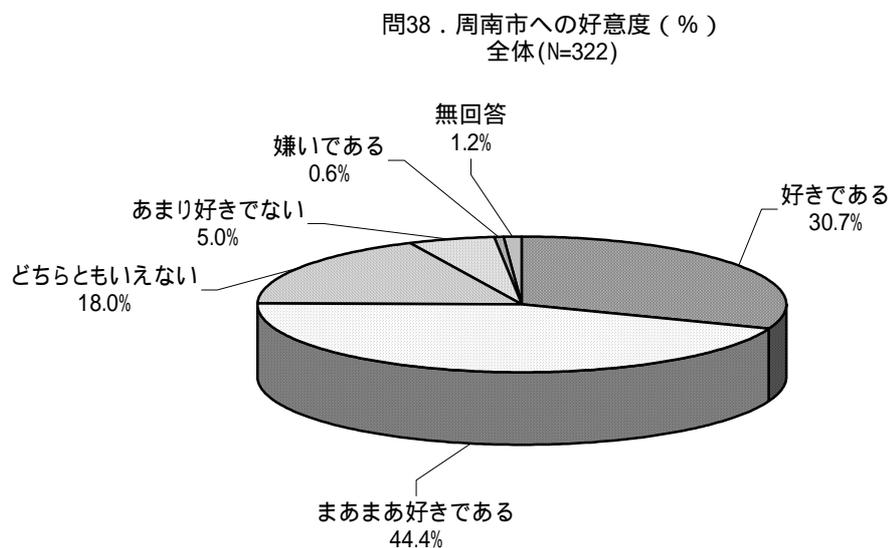
子どもの遊び場について感じる事については、「満足している」が3.1%と少ないことから、大半が何らかの不満を感じているとみられる。遊び場については「雨の日に遊べる場所がない」が58.7%と最も多く、次いで「思い切り遊ぶため十分な広さがない」(32.3%)、「遊具などの種類が充実していない」(26.4%)、「近くに遊び場がない」(24.2%)などが続く。



【 8 】 保護者及び子どもの生活に関することについて

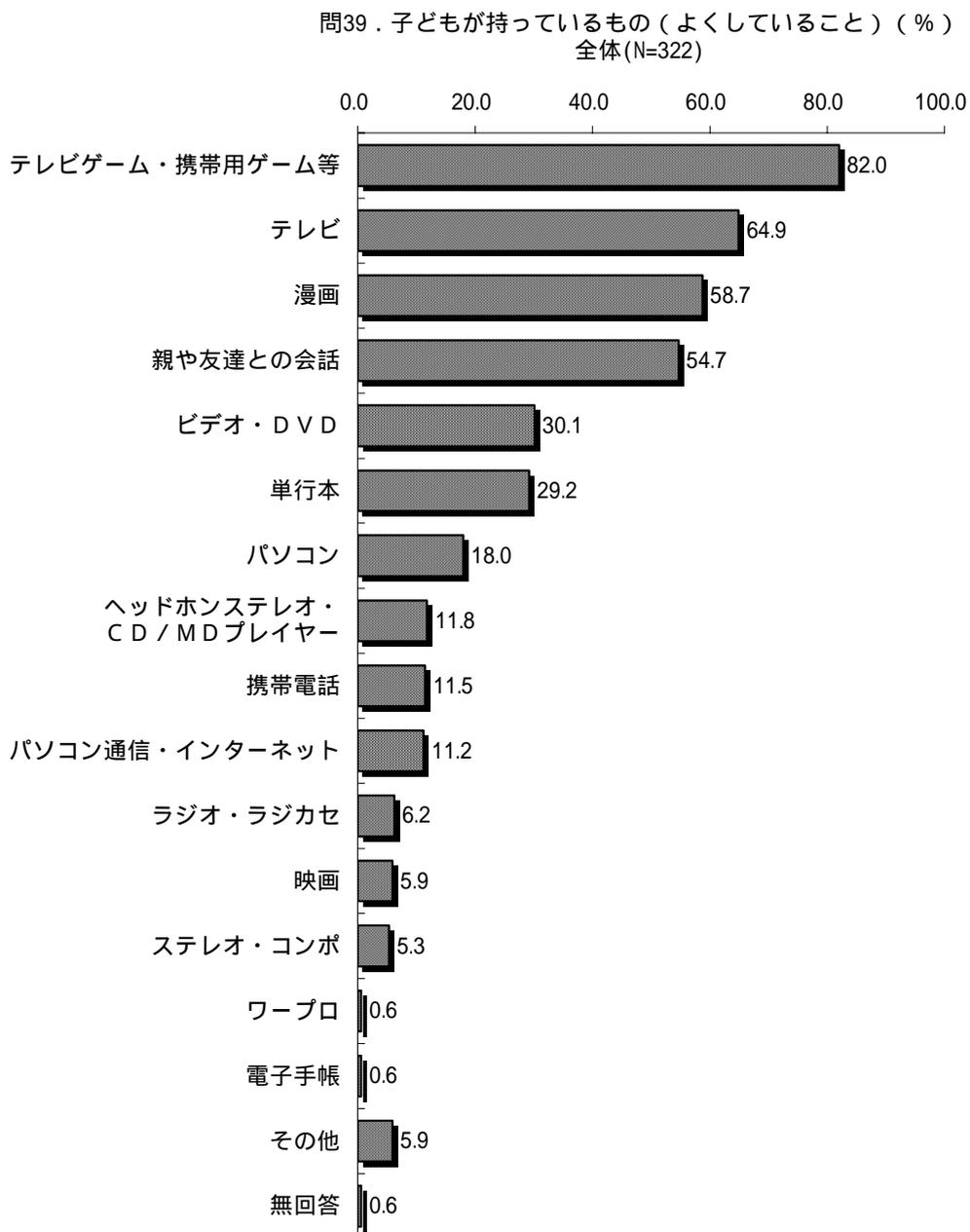
1. 周南市への好意度（問 38）

周南市への好意度については、「まあまあ好きである」が 44.4%と最も多く、「好きである」が 30.7%と、合計 7 割以上（75.1%）は好感を持っている。



2. 子どもが持っているもの(よくしていること)(問39)

子どもが持っているもの(よくしていること)については、「テレビゲーム・携帯用ゲーム等」が82.0%と最も多く、次いで「テレビ」が64.9%で多くなっている。以下「漫画(58.7%)」「親や友達との会話(54.7%)」などが続く。

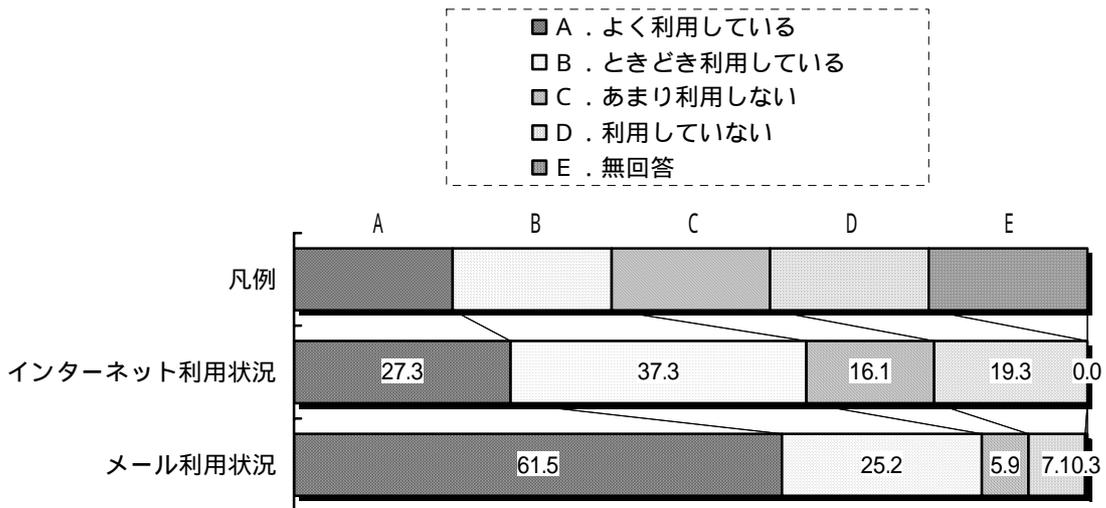


3. インターネットやメールの利用状況（問40・問41）

インターネットの利用状況については、「ときどき利用している」が37.3%と最も多く、「よく利用している」が27.3%となっており、合計6割以上（64.6%）がふだん利用しているとみられる。

メールの利用状況については、「よく利用している」が61.5%と最も多く、「ときどき利用している」が25.2%となっており、合計8割以上（86.7%）がふだん利用しているとみられる。

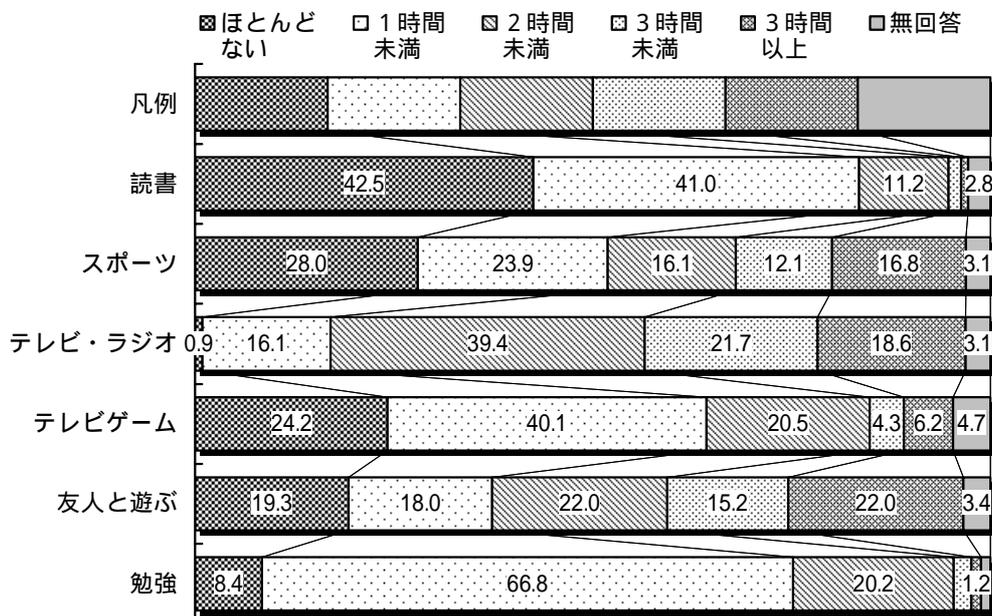
問40・問41. インターネットやメールの利用状況（%）
全体(N=322)



4. 子どもの休日の過ごし方について（問42）

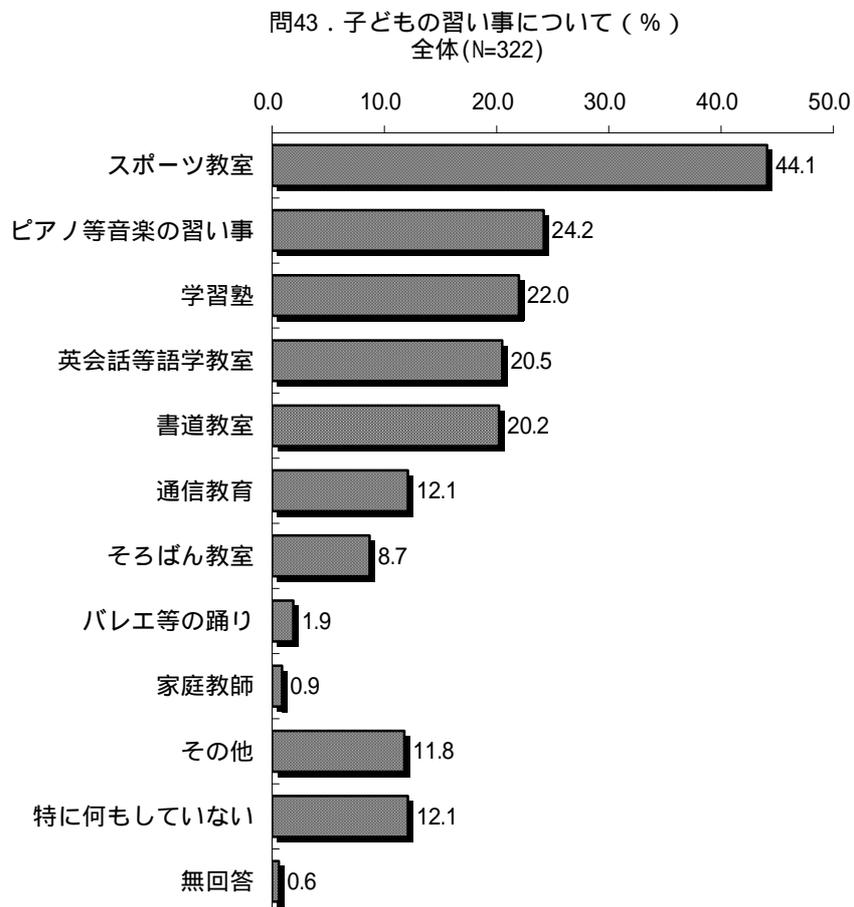
子どもの休日の過ごし方については、「勉強」は「1時間未満」が7割近く（66.8%）を占めるのに対し、「テレビ・ラジオ」や「友人と遊ぶ」は1時間以上の占める割合が高くなっている。「読書」は「ほとんどない」「1時間未満」が多くなっている。

問42. 子どもの休日の過ごし方について（%）
全体(N=322)



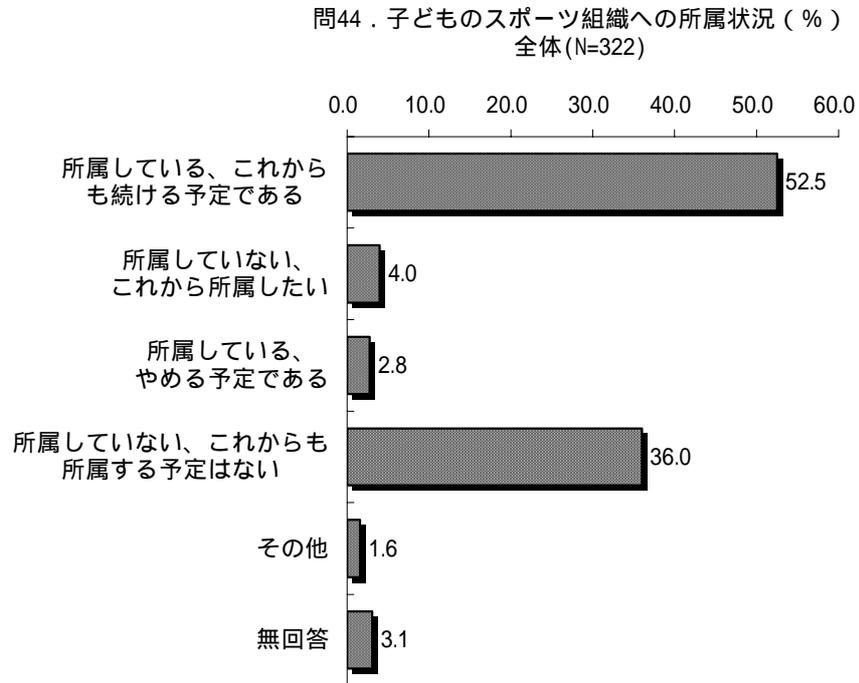
5. 子どもの習い事について(問43)

子どもの習い事等については、「特に何もしていない」が12.1%であることから、およそ8割程度が何らかの習い事等をしているとみられる。習い事等は「スポーツ教室」が44.1%と最も多く、以下「ピアノ等音楽の習い事」(24.2%)、「学習塾」(22.0%)、「英会話等語学教室」(20.5%)、「書道教室」(20.2%)と続く。



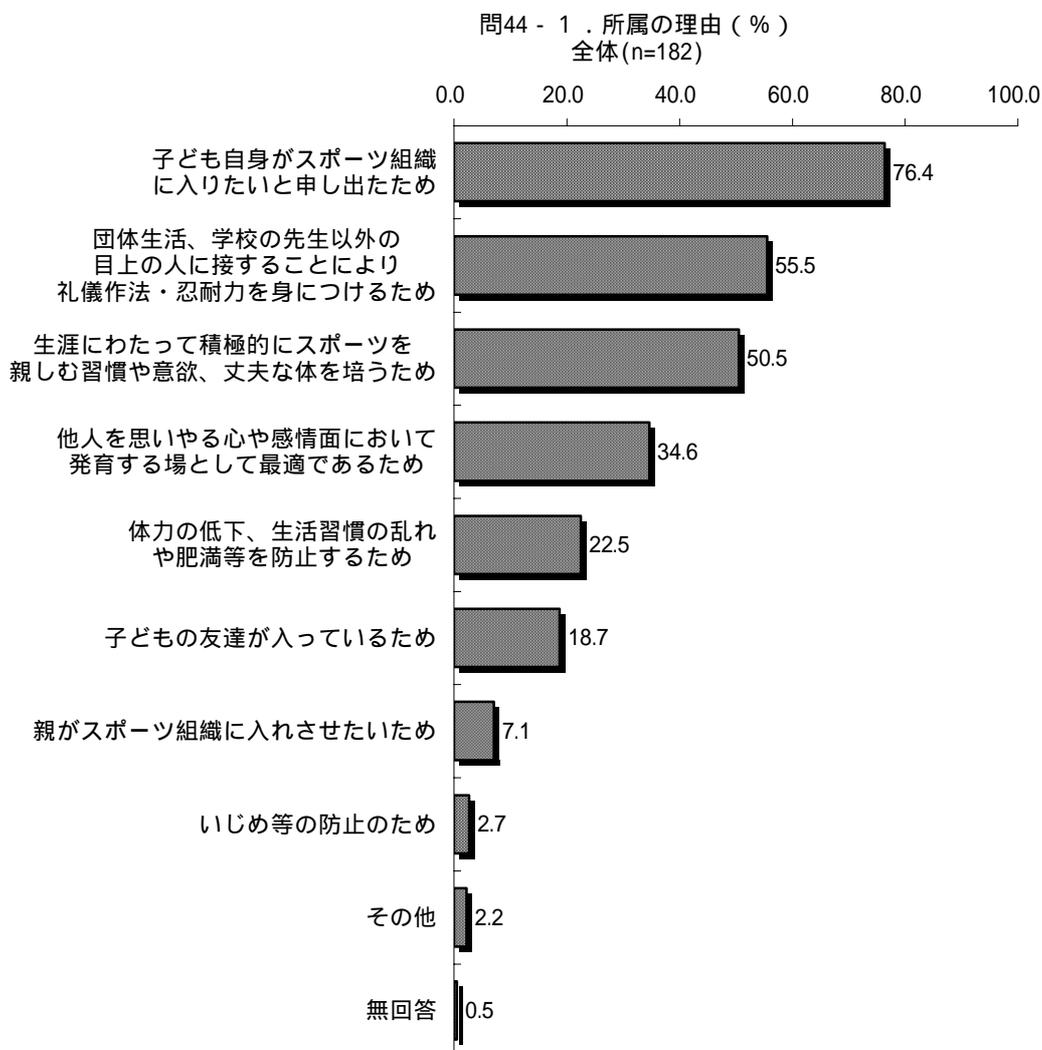
6. 子どものスポーツ組織への所属状況（問44）

子どものスポーツ組織への所属状況については、「所属している、これからも続ける予定である」の52.5%、「所属していない、これから所属する予定はない」の36.0%に分かれる。



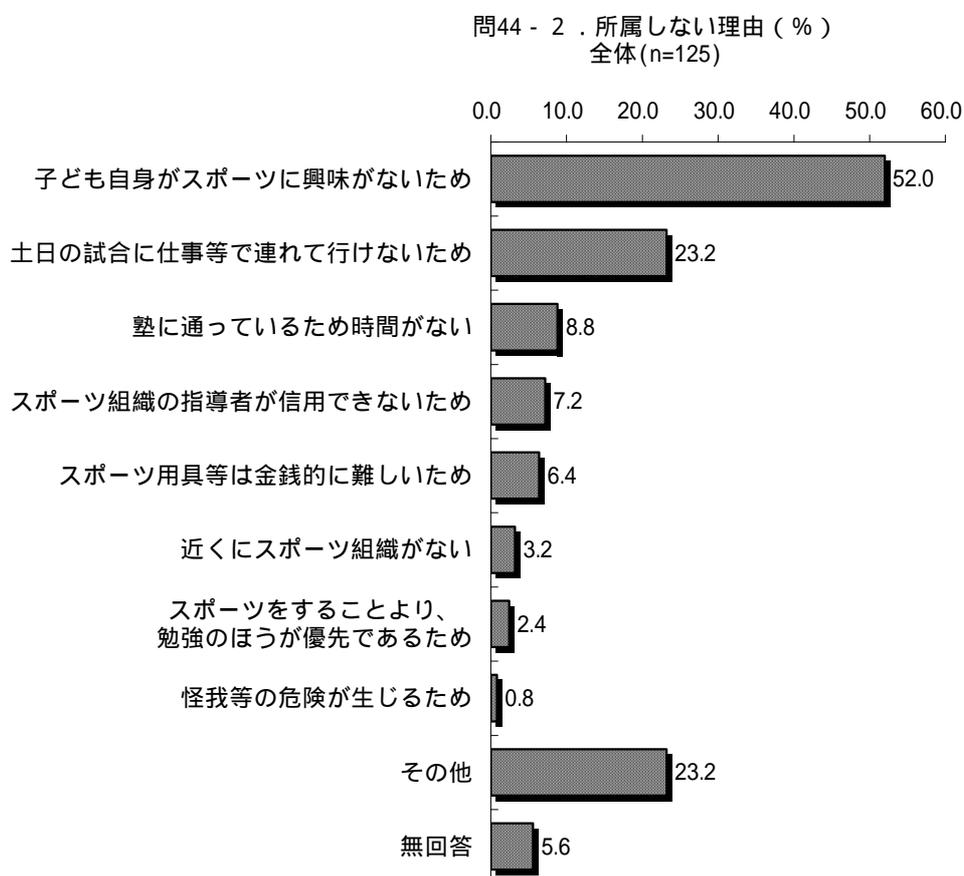
7. 所属の理由 (問 44-1)

所属の理由については、「子ども自身がスポーツ組織に入りたいと申し出たため」が76.4%と最も多く、次いで「団体生活、学校の先生以外の目上の人に接することにより礼儀作法・忍耐力を身につけるため」が55.5%、「生涯にわたって積極的にスポーツを親しむ習慣や意欲、丈夫な体を培うため」が50.5%となっている。



8. 所属しない理由（問44-2）

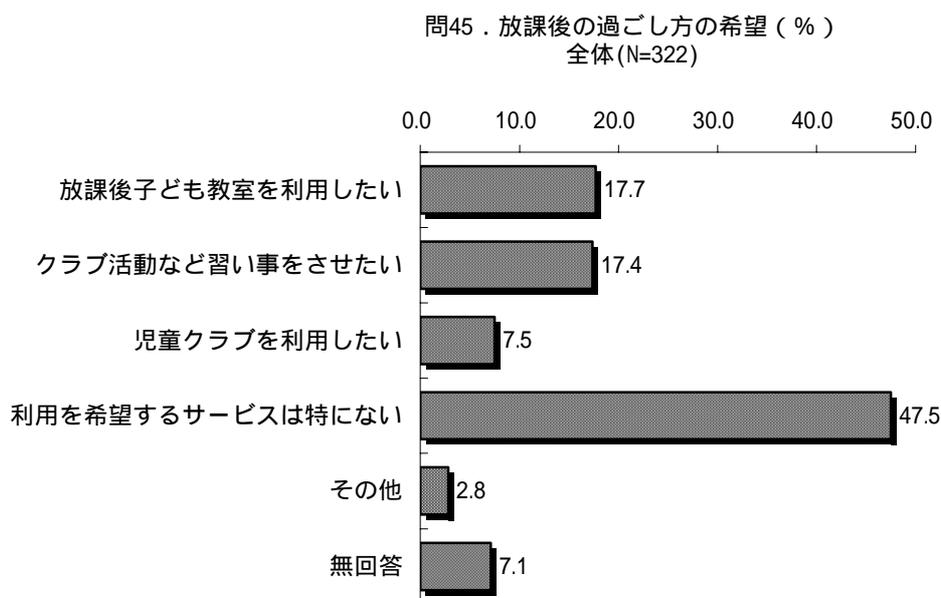
所属しない理由については、「子ども自身がスポーツに興味がないため」が52.0%と最も多く、次いで「土日の試合に仕事等で連れて行けないため」が23.2%となっているが、この他の理由は少ない。



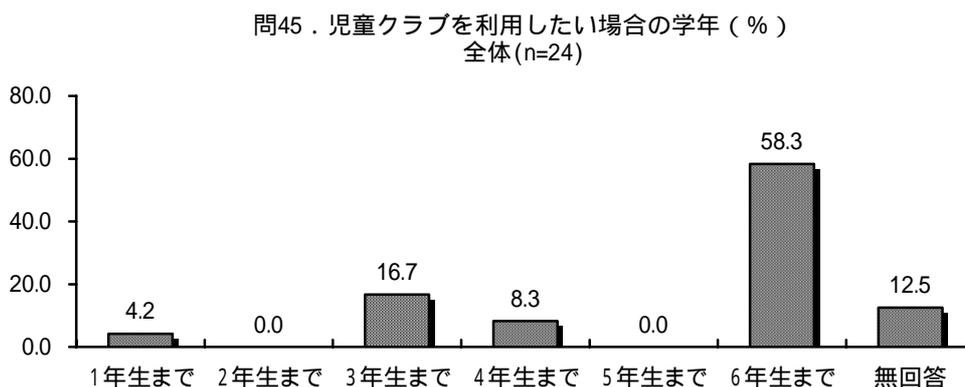
【9】児童クラブ、放課後子ども教室の利用について

1. 放課後の過ごし方の希望（問45）

放課後の過ごし方の希望については、「利用を希望するサービスは特にない」が47.5%で最も多くなっており、以下「放課後子ども教室を利用したい」(17.7%)、「クラブ活動など習い事をさせたい」(17.4%)、「児童クラブを利用したい」(7.5%)の順となっている。



児童クラブを利用する場合の希望学年は、「6年生まで」が58.3%を占めて主流となっている。

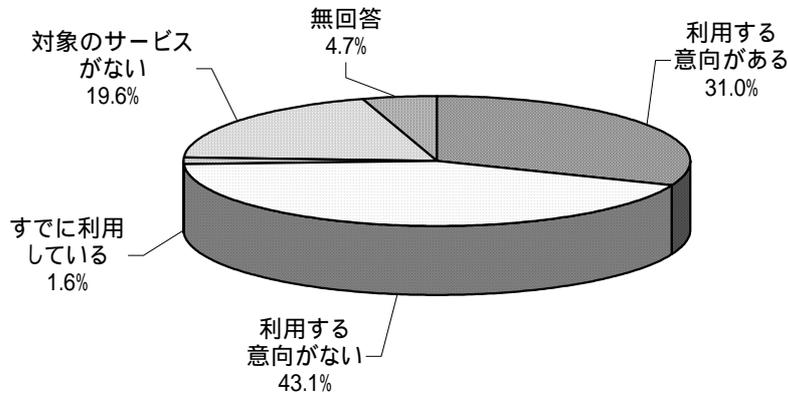


(注)設問では「あて名のお子さん(小学5～6年生)」の放課後の過ごし方を聞いていますが、「1～4年生まで」への回答もみられます。これは記入者が末子の利用を前提に、回答したものとみられます。

2. 放課後子ども教室の利用希望（問 46）

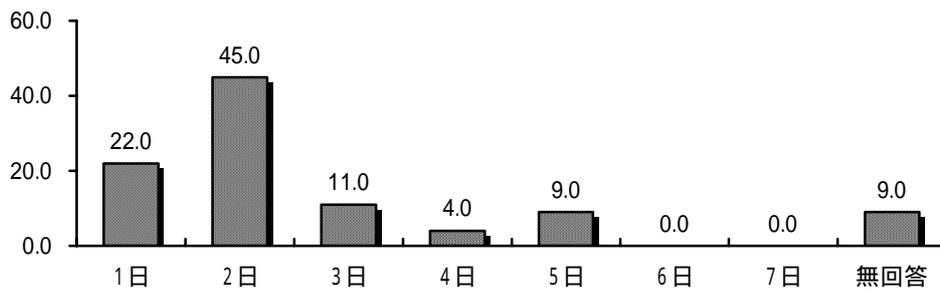
放課後子ども教室の利用希望については、「利用する意向がある」が 31.0%みられた。

問46. 放課後子ども教室の利用希望（%）
全体(N=322)



放課後子ども教室の利用を希望する場合の週あたり日数は、「2日」が 45.0%を占めて最も多くなっている。

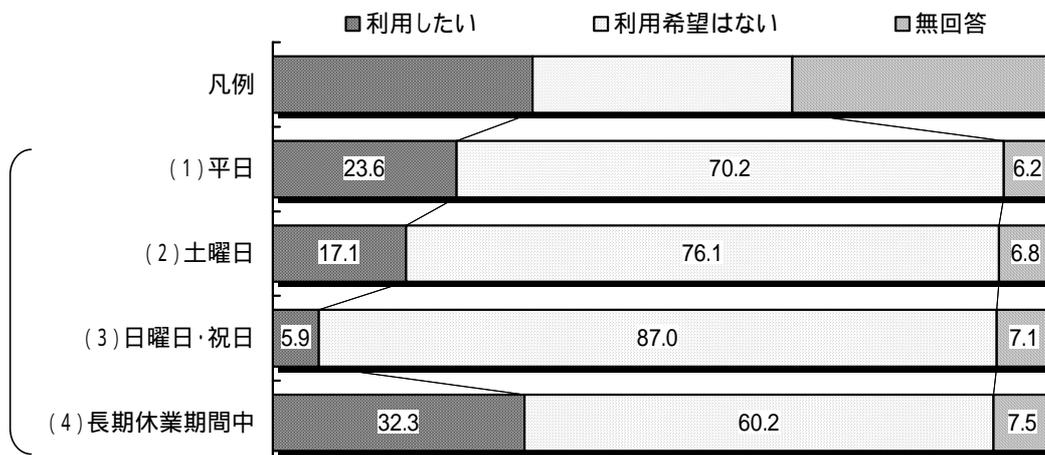
問46. 放課後子ども教室を利用したい場合の希望日数（%）
全体(n=100)



3. 児童クラブの利用希望（問 47）

放課後児童クラブの利用希望については、長期休業期間中で「利用したい」が 32.3%と多くなっているほか、平日で 23.6%、土曜日で 17.1%、日曜日・祝日で 5.9%が「利用したい」としている。

問47. 児童クラブの利用希望 / 平日 (%)

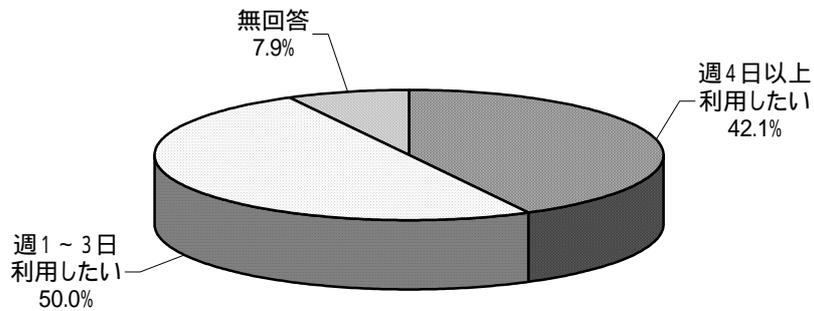


4. 利用希望条件

(1) 児童クラブ平日利用希望者 / 希望日数

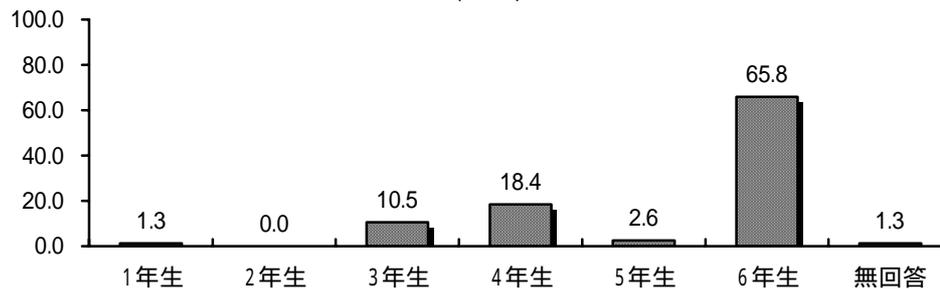
平日利用希望日数については、「週1～3日利用したい」が50.0%で最も多く、次いで「週4日以上利用したい」が42.1%が続いている。

問47. 児童クラブ平日利用希望者 / 希望日数 (%)
(n=76)



平日利用希望学年については、「6年生」までが65.8%で主流となっている。

問47. 児童クラブを利用したい場合の希望学年 / 平日 (%)
(n=76)

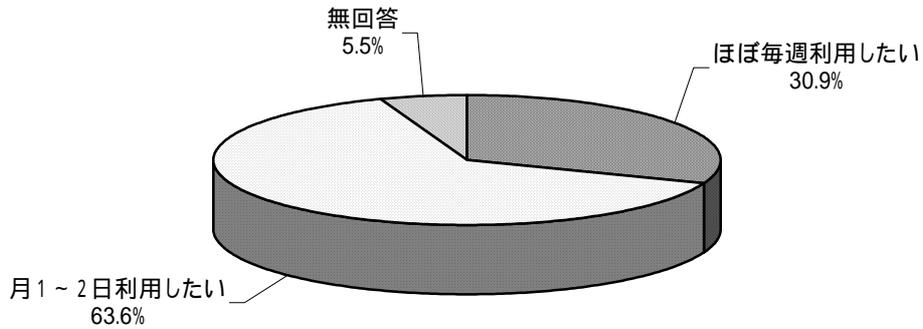


平日の利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「16時～18時台」が主流となっている。

(2) 児童クラブ土曜日利用希望者 / 希望日数

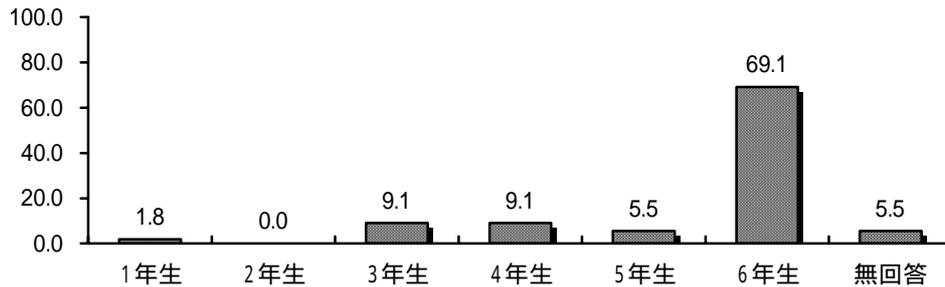
土曜日利用希望日数については、「月1～2日利用したい」が63.6%を占め多くなっている。

問47. 児童クラブ土曜日利用希望者 / 希望日数 (%)
(n=55)



土曜日利用希望学年については、「6年生」までが69.1%で主流となっている。

問47. 児童クラブを利用したい場合の希望学年 / 土曜日 (%)
(n=55)

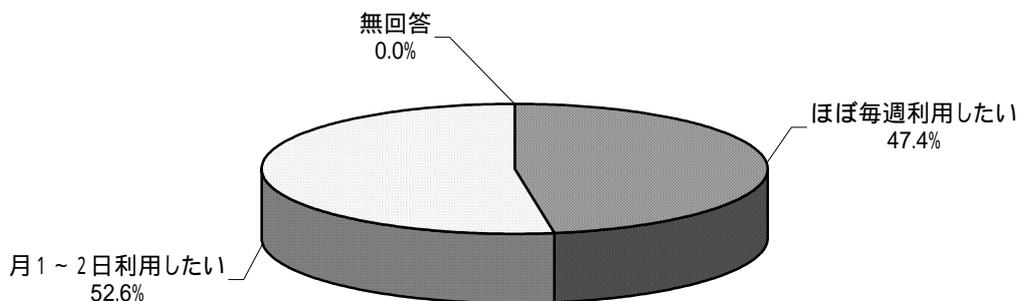


土曜日の利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時～18時台」が主流となっている。

(3) 児童クラブ日曜日・祝日利用希望者 / 希望日数

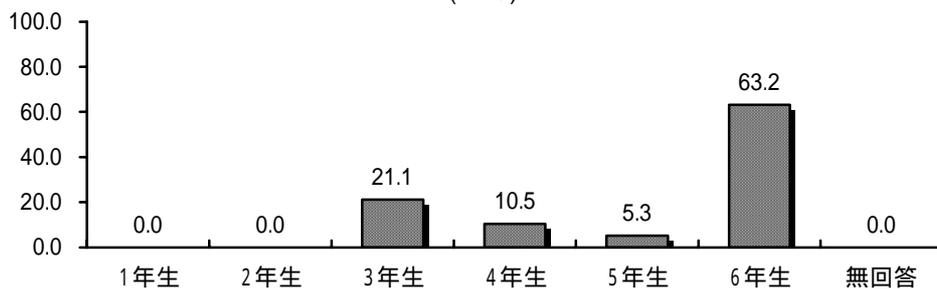
日曜日・祝日利用希望日数については、「月1～2日利用したい」が52.6%で最も多く、次いで「ほぼ毎週利用したい」が47.4%となっている。

問47. 児童クラブ日曜日・祝日利用希望者 / 希望日数 (%)
(n=19)



日曜日・祝日利用希望学年については、「6年生」までが63.2%で主流となっている。

問47. 児童クラブを利用したい場合の希望学年 / 日曜日 (%)
(n=19)

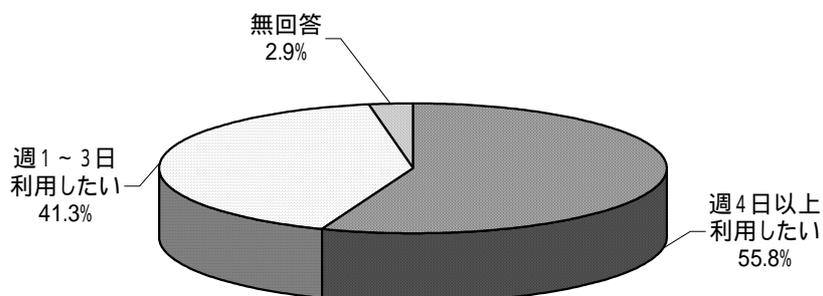


日曜日・祝日の利用開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時～18時台」が主流となっている。

(4) 児童クラブ長期休業期間中利用希望者 / 希望日数

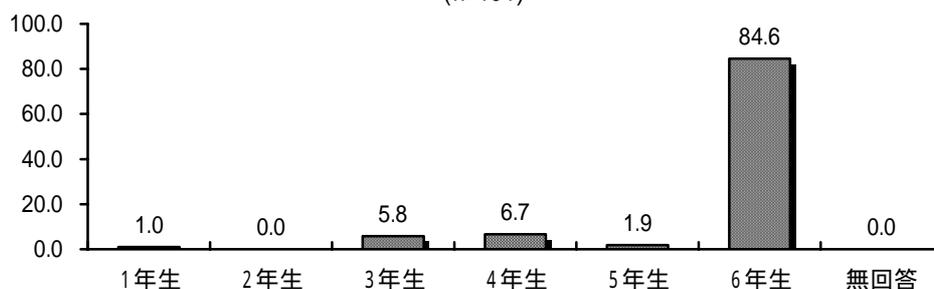
長期休業期間中利用希望日数については、「週4日以上利用したい」が55.8%で最も多く、次いで「週1~3日利用したい」が41.3%となっている。

問47. 児童クラブ長期休業期間中利用希望者 / 希望日数 (%)
(n=104)



長期休業期間中利用希望学年については、「6年生」までが84.6%で主流となっている。

問47. 児童クラブを利用したい場合の希望学年 / 長期休業期間中 (%)
(n=104)



長期休業期間中の利用希望開始時間と終了時間については、最も割合の高い時間帯でみると「8時~18時台」が主流となっている。

5. 放課後児童クラブ利用希望

放課後児童クラブの利用希望理由については、平日、土曜日、日曜日・祝日などいずれも「現在就労している」が主流となっている。土曜日の利用希望理由については、「現在就労している」のほか、「就労していないが、子どもの教育などのために預けたい」が1割程度みられる。

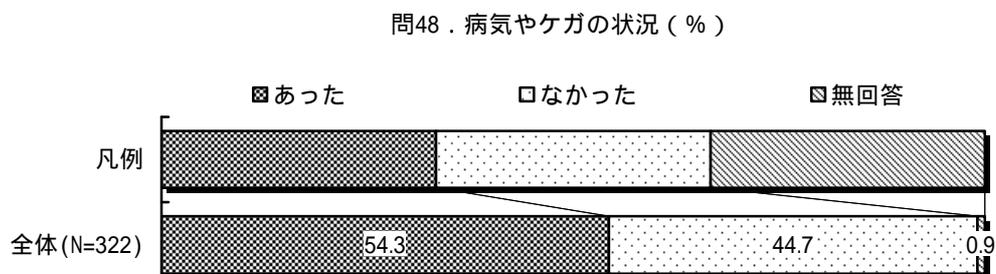
問47-1 利用したい理由 (%)

	現在就労している	求職中である	そのうち就労したいと考える	家族や親族を介さない	病気や障害をもって	学生である・就学	子どもを預けたくないが、子どものため	その他
平日 (n=76)	75.0	0.0	5.3	1.3	0.0	2.6	6.6	3.9
土曜日 (n=55)	67.3	0.0	9.1	0.0	0.0	1.8	10.9	7.3
日曜日・祝日 (n=19)	73.7	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5
長期休暇 (n=104)	76.9	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	9.6	1.9

【10】病気等のときの状況について

1. 病気やケガの状況（問48）

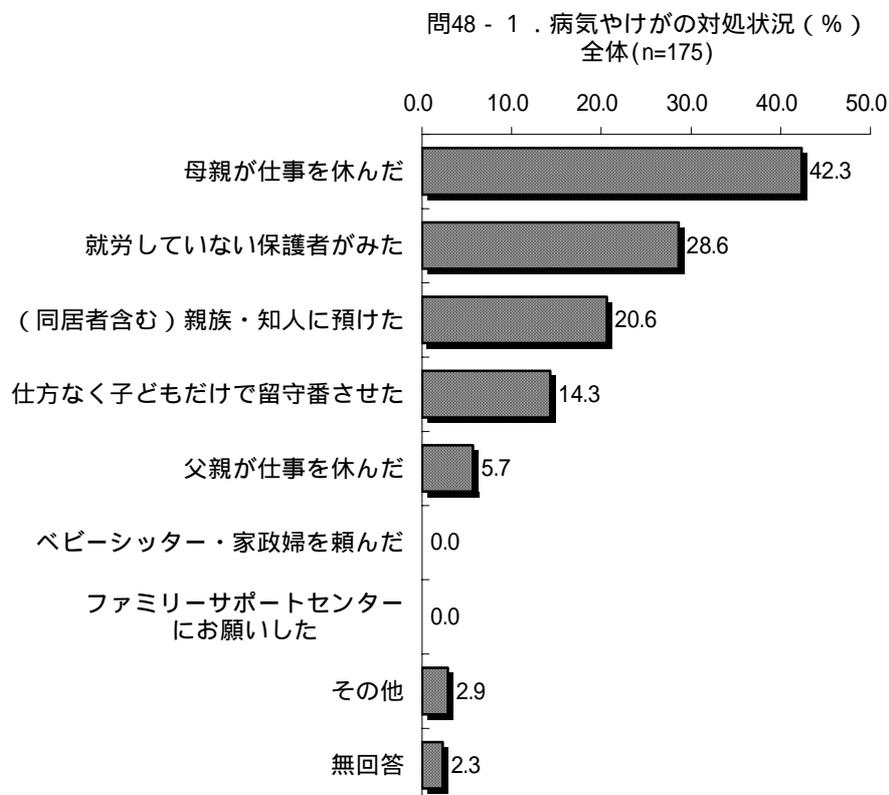
病気やケガで学校を休まなければならなかったことの有無については、「あった」が54.3%、「なかった」が44.7%の内訳となっている。



2. 病気やケガの時の対処状況（問48-1）

（1）対処状況

病気やケガの時の対処状況については、「母親が仕事を休んだ」が42.3%で最も多く、次いで「就労していない保護者がみた」が28.6%、「（同居者含む）親族・知人に預けた」(20.6%)、「仕方なく子どもだけで留守番させた」(14.3%)の順となっている。



(2) 対処方法別日数

「(2) 母親が休んだ」場合は「1～4日」が78.4%で、年間平均は3.4日/年となっている。

問48-1. 対処方法別日数(%)

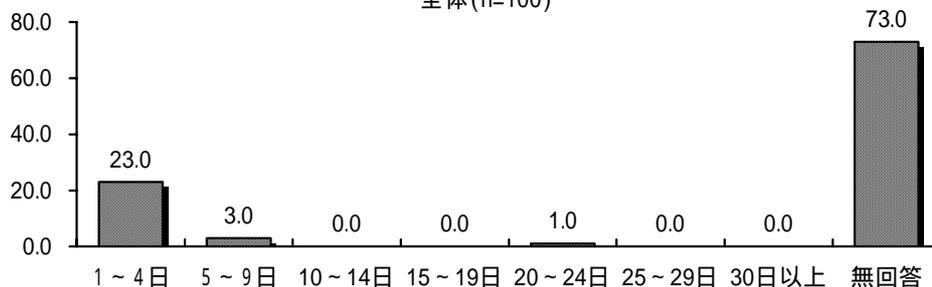
	1～4日	5～9日	10～14日	15～29日	30日以上	無回答	平均(日/年)
(1) 父親が休んだ日数(n=10)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
(2) 母親が休んだ日数(n=74)	78.4	6.8	2.7	1.4	2.7	8.1	3.4
(3) 親族・知人に預けた日数(n=36)	86.1	2.8	2.8	2.8	0.0	5.6	2.7
(6) ファミリーサポートセンターに お願いした日数(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
(7) 子どもだけ留守番させた日数(n=25)	88.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0	1.9
(8) その他の日数(n=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2

(注) 基数(n)が少ない項目については、参考値として参照してください。

(3) 施設等に預けたいと思った日数(問48-2)

施設に預けたいと思った日数については、「1～4日」が23.0%みられるが、それ以上の日数についてはそれぞれ少ない。(この場合の「無回答」には、設問内容からみて「預けたいと思わなかった」という意識が多数含まれていると推察される。)

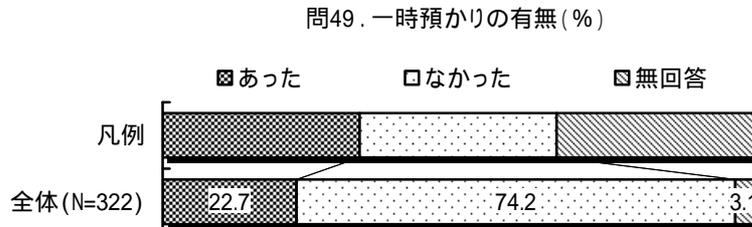
問48-2. 施設に預けたいと思った日数(%)
全体(n=100)



【11】一時預かりについて

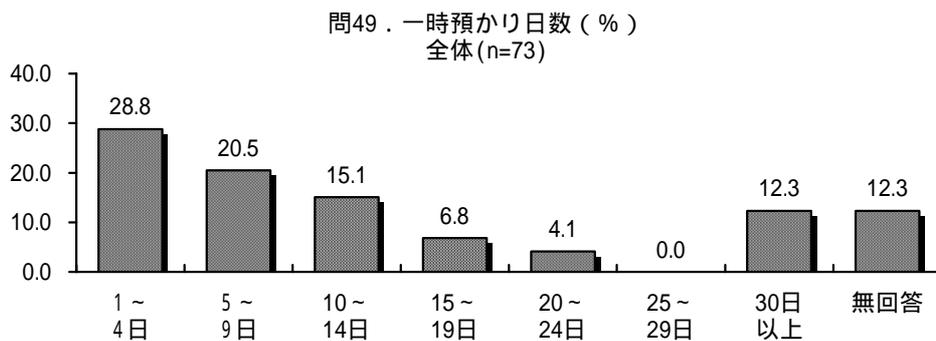
1. 一時預かりの有無(問49)

一時預かりについては、「あった」が22.7%、「なかった」が74.2%の内訳となっている。「タイプC：フルタイムとパート共働き」のうち「支援少」において「あった」が相対的に多くみられる。



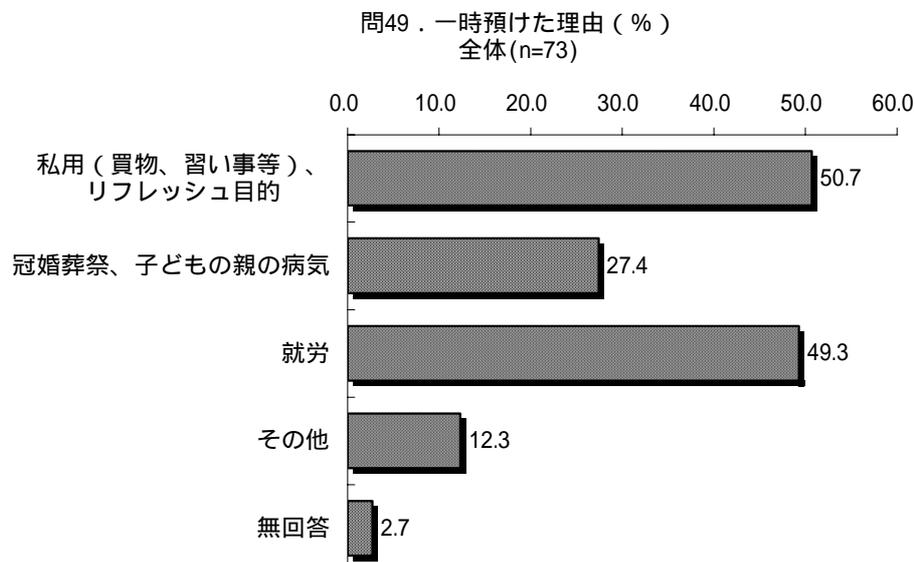
2. 一時預けた日数

一時預かり経験者における(年間)日数については、「1~4日」が28.8%と最も多く、次いで「5~9日」(20.5%)、「10~14日」(15.1%)の順となっている。



3. 一時預かりの理由

一時預かり経験者におけるその理由については、「私用(買物、習い事等)、リフレッシュ目的」が50.7%と最も多く、以下「就労」(49.3%)、「冠婚葬祭、子どもの親の病気」(27.4%)などが続く。



理由別の日数をみると、「(1)私用(買物、習い事等)、リフレッシュ目的」の場合は「1～4日」が40.5%で、年間平均8.3日/年、「(2)冠婚葬祭、子どもの親の病気」の場合は4.9日/年、「(3)就労」の場合は12.4日/年などとなっている。

問49. 一時預かり理由別日数(%)

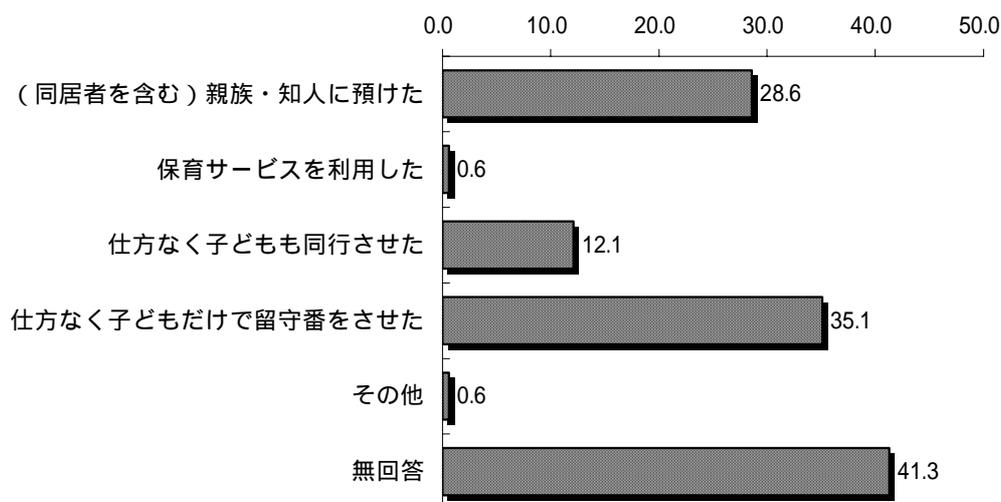
	1～4日	5～9日	10～14日	15～29日	30日以上	無回答	平均(日/年)
(1)私用、リフレッシュ目的の場合(n=37)	40.5	18.9	8.1	5.4	8.1	18.9	8.3
(2)冠婚葬祭、子どもの親の病気の場合(n=20)	65.0	10.0	10.0	0.0	5.0	10.0	4.9
(3)就労の場合(n=36)	38.9	27.8	13.9	16.7	2.8	0.0	12.4
(4)その他の場合(n=9)	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	13.9

(注) 基数(n=)が少ない項目については、参考値として参照してください。

4. 一時預かりの対処方法(問50)

一時預かりの対処方法については、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が35.1%と最も多く、次いで「(同居者を含む)親族・知人に預けた」が28.6%となっている。

問50. 一時預かりの対処方法(%)
全体(N=322)



対処法別で日数をみると、「(1)親族・知人に預けた」場合は「1～4日」が41.3%で年間平均8.0日/年、「(3)子どもを同行させた」場合は「1～4日」が56.4%で2.9日/年、「(4)子どもだけで留守番させた」場合は「1～4日」が40.7%で8.0日/年などとなっている。

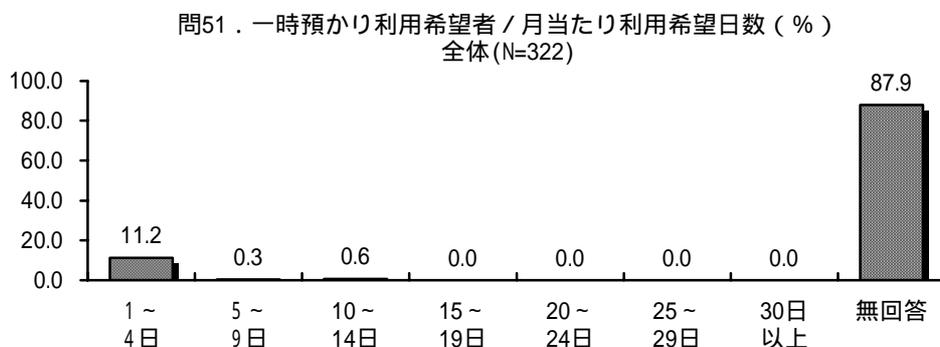
問50. 一時預かり対処方法別日数(%)

	1～4日	5～9日	10～14日	15～29日	30日以上	無回答	平均(日/年)
(1)親族・知人に預けた日数(n=92)	41.3	18.5	10.9	7.6	4.3	17.4	8.0
(2)保育サービスを利用した日数(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	1.0
(3)子どもを同行させた日数(n=39)	56.4	5.1	7.7	0.0	0.0	30.8	2.9
(4)子どもだけで留守番させた日数(n=113)	40.7	12.4	7.1	4.4	5.3	30.1	8.0
(5)その他の日数(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	1.0

(注) 基数(n=)が少ない項目については、参考値として参照してください。

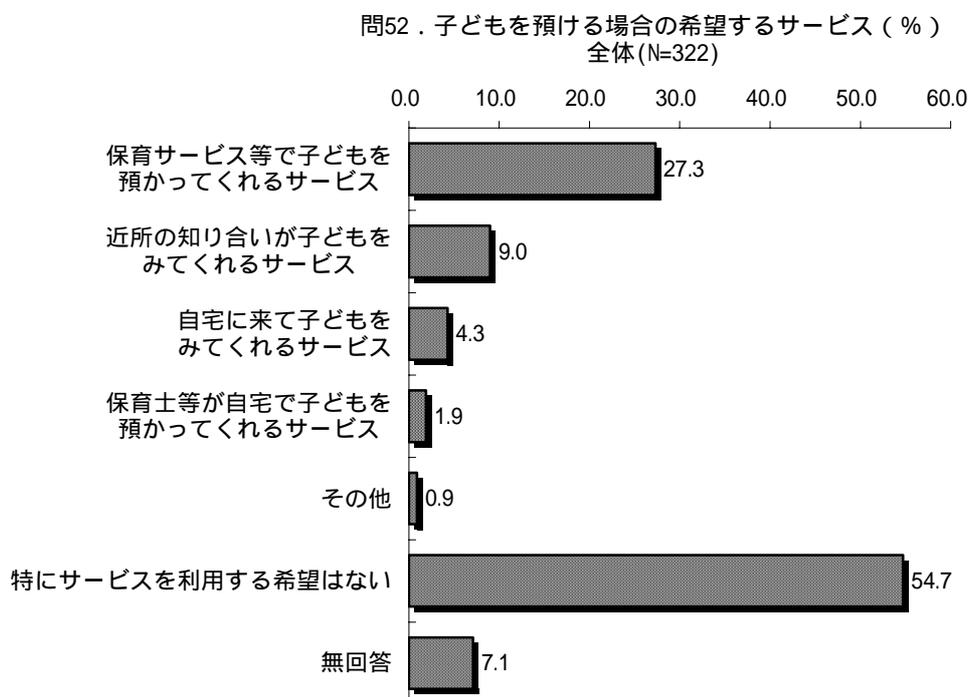
5. 一時預かり / 月当たり利用希望日数 (問 51)

一時預かりする場合の月当たり利用希望日数については、「1～4日」が11.2%となっているが、これ以上の日数は少ない。(この場合の「無回答」には、設問内容からみて「利用したいと思わない」という意識が多数含まれていると推察される。)



6. 希望する一時預かりサービス (問 52)

希望する一時預かりサービスについては、「特にサービスを利用する希望はない」が54.7%で最も多くなっており、次いで「保育サービス等で子どもを預かってくれるサービス」が27.3%となっているが、この他の対処方法は少ない。

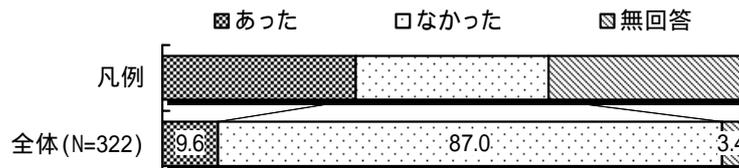


【12】 宿泊を伴う一時預かりについて

1. 宿泊を伴う一時預かりの有無（問 53）

宿泊を伴う一時預かりの有無については、「あった（預け先が見つからなかった場合を含む）」が 9.6%、「なかった」が 87.0%の内訳である。「タイプC：フルタイムとパート共働き」「タイプB：フルタイム共働き」で「あった」がやや多くみられる。

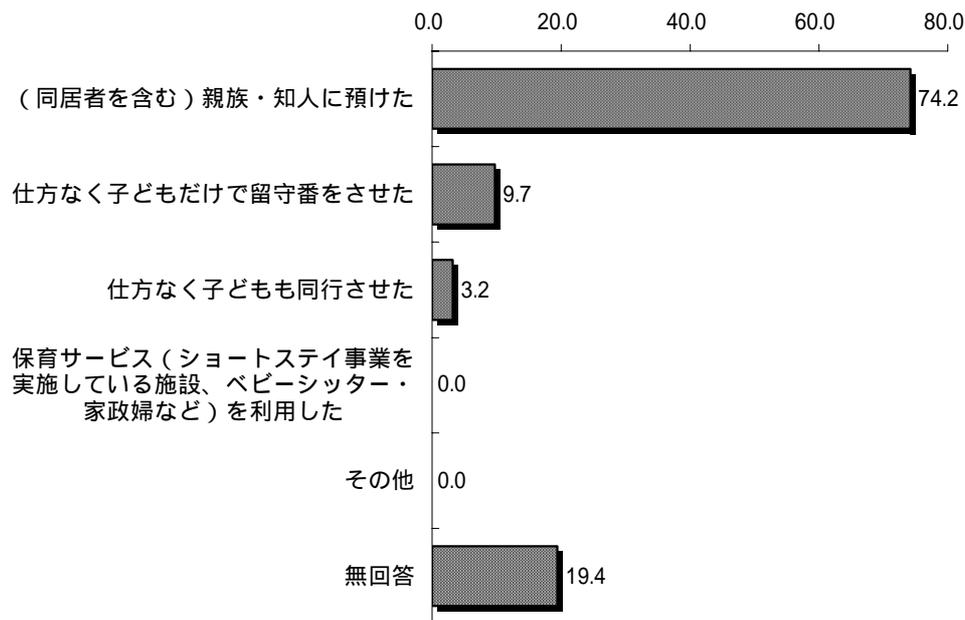
問53. 宿泊を伴う一時預かりの有無 (%)



2. 宿泊を伴う一時預かりの対処方法（問 53-1）

宿泊を伴う一時預かり時の対処方法については、「（同居者を含む）親族・知人に預けた」が 74.2%で主流となっている。

問53-1. 宿泊を伴う時の対処状況 (%)
全体 (n=31)



対処法別の日数をみると、「(1)親族・知人に預けた」場合は「1～4日」が 47.8%で、年間平均 7.6 日/年などとなっている。

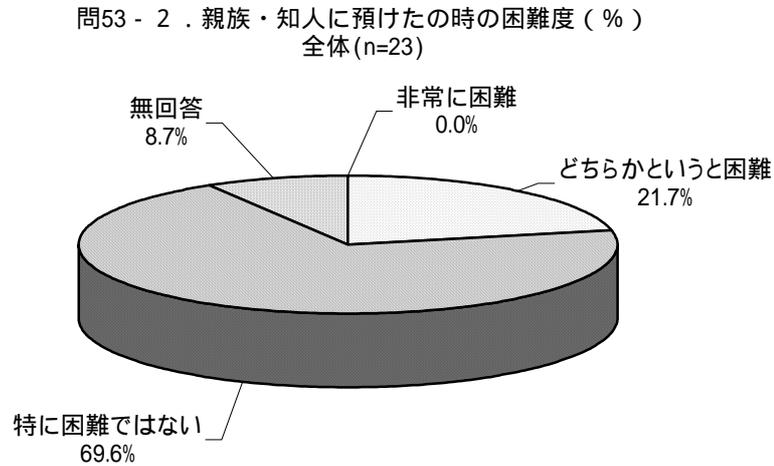
問53-1. 宿泊を伴う対処方法別日数 (%)

	1～4日	5～9日	10～14日	15～29日	30日以上	無回答	平均 (日/年)
(1) 親族・知人に預けた日数(n=23)	47.8	21.7	13.0	4.3	4.3	8.7	7.6
(2) 保育サービスを利用した日数(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
(3) 子どもを同行させた日数(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
(4) 子どもだけで留守番させた日数(n=3)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	1.5
(5) その他の日数(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-

(注) 基数 (n) が少ない項目については、参考値として参照してください。

3. 親族・知人に預けた際の困難度（問 53-2）

「親族・知人に預けた」場合の困難度については、「特に困難ではない」が 69.6%を占め最も多く、「どちらかという困難」は 21.7%みられた。



【13】ベビーシッターの利用について

1. ベビーシッター利用有無（問 54）

ベビーシッター利用者は 2 件みられた。

2. ベビーシッター利用目的（問 54-1）

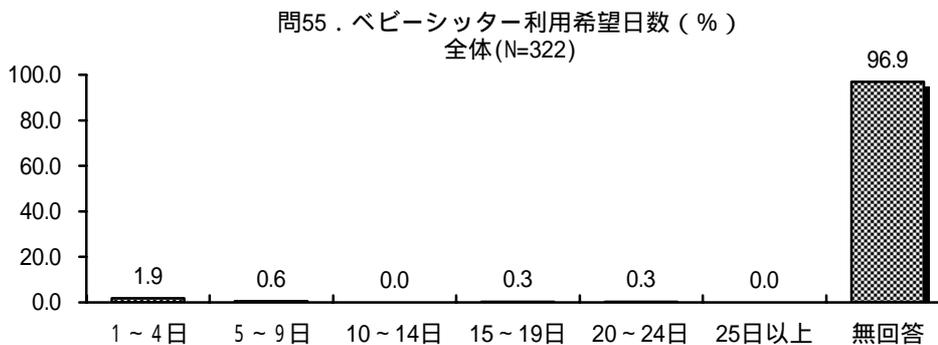
ベビーシッター利用者（2 件）では「無回答」であった。

3. ベビーシッター利用頻度（問 54-1）

ベビーシッター利用者（2 件）では「無回答」であった。

4. ベビーシッター / 月当たり利用希望日数（問 55）

ベビーシッターの月当たり利用希望日数についてはほとんどニーズがみられない。（この場合の「無回答」には、設問内容からみて「利用したいと思わなかった」という意識が多数含まれていると推察される。）

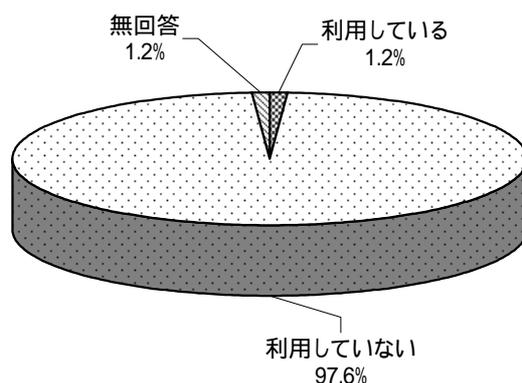


【14】ファミリーサポートセンターについて

1. ファミリーサポートセンターの利用有無（問 56）

ファミリーサポートセンターの利用有無については、「利用している」が 1.2%、「利用していない」が 97.6%の内訳である。

問56. ファミリーサポートセンターの利用有無（%）
全体(N=322)



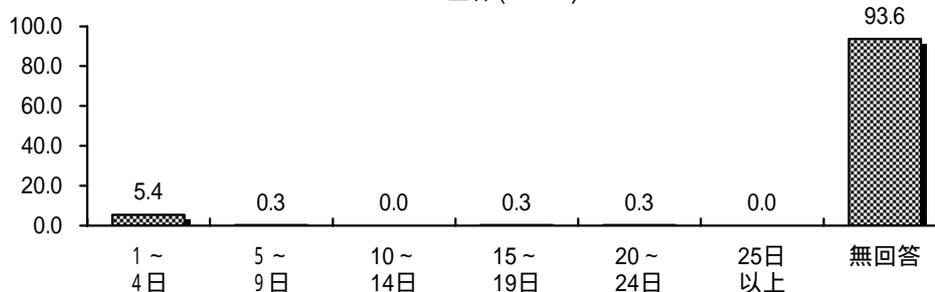
2. ファミリーサポートセンターの利用目的（問 56-1）

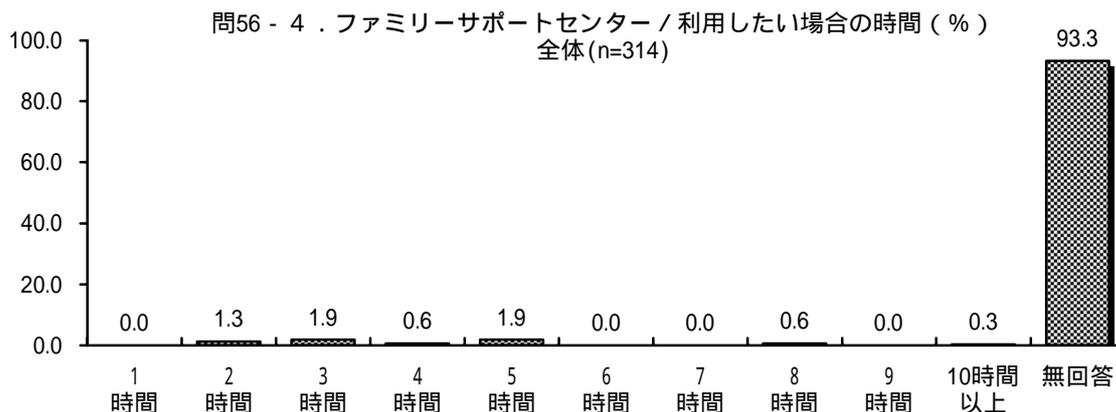
ファミリーサポートセンター利用者は 1.2%（4件）みられたが、利用目的としては、「子どもの病気・ケガ等の緊急時に利用している」「親の冠婚葬祭等や買い物等の外出の際に利用している」「学校等の送り迎えに利用している」などの回答であった。

3. ファミリーサポートセンター未利用者 / 利用希望程度（問 56-4）

ファミリーサポートセンター未利用者における利用希望日数は、「1～4日」が 5.4%となっているが、ニーズは低い。（この場合の「無回答」には、設問内容からみて「利用したいと思わない」という意識が多数含まれていると推察される。）

問56 - 4 . ファミリーサポートセンター / 利用したい場合の回数（%）
全体(n=314)



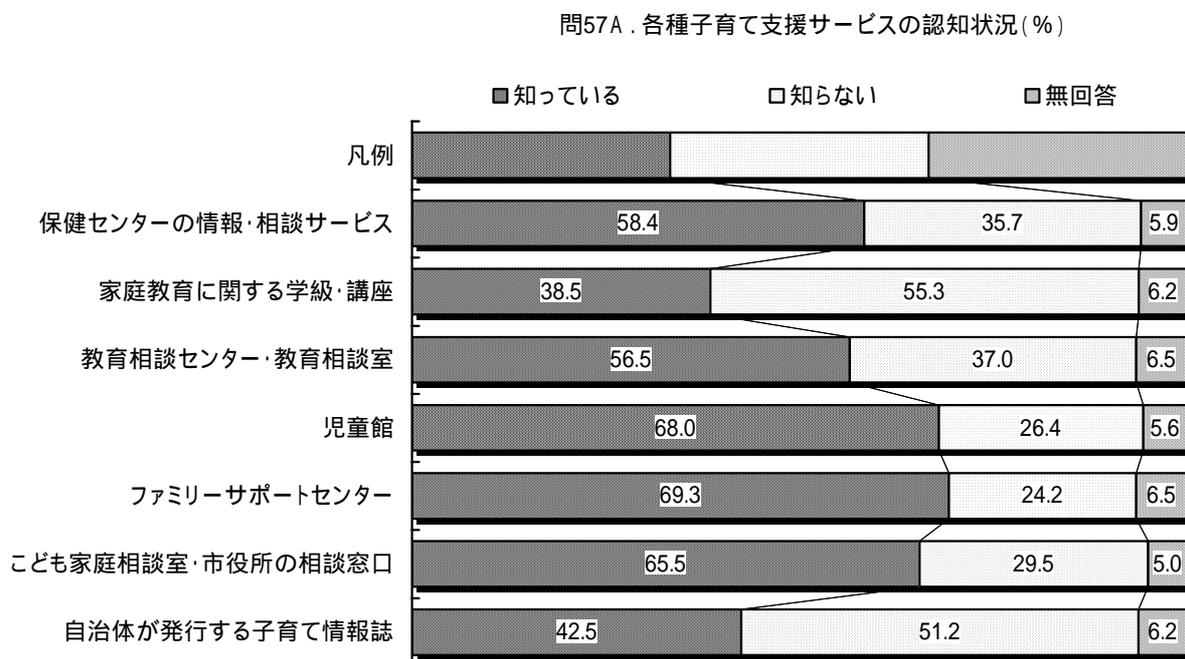


【15】その他子育て支援施策・行政サービスについて

1. 事業やサービスの認知・利用等 (問 57)

(1) 各種子育て支援サービスの認知状況

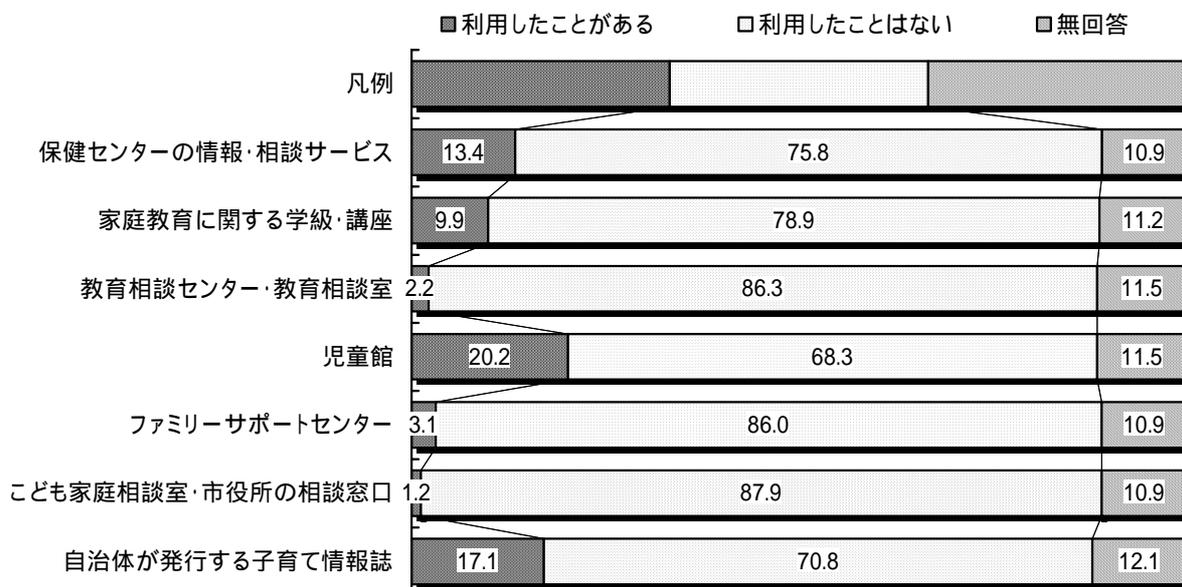
各種子育て支援サービスの認知状況について、「知っている」についてみると、「ファミリーサポートセンター」が69.3%で最も多くなっており、次いで「児童館」が68.0%、「こども家庭相談室・市役所の相談窓口」が65.5%、「保健センターの情報・相談サービス」が58.4%などとなっている。



(2) 各種子育て支援サービスの利用状況

各種子育て支援サービスの利用状況については、「利用したことがある」は「児童館」が20.2%で最も多くなっており、次いで「自治体が発行する子育て情報誌」が17.1%、「保健センターの情報・相談サービス」が13.4%などとなっている。

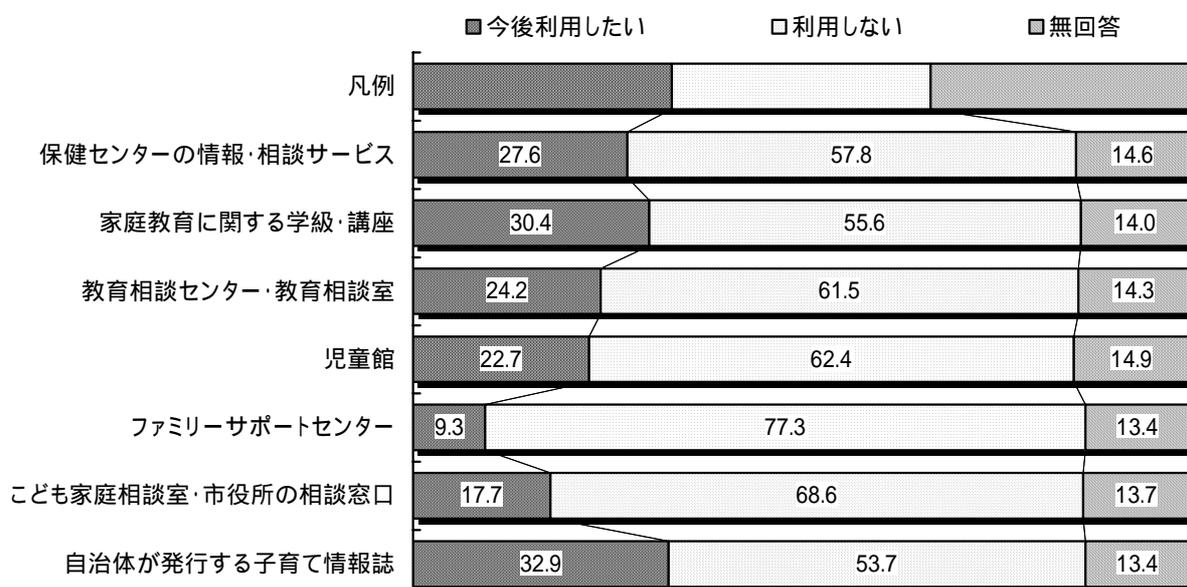
問57B. 各種子育て支援サービスの利用状況(%)



(3) 各種子育て支援サービスの今後の利用希望

各種子育て支援サービスの今後の利用希望については、「今後利用したい」は「自治体が発行する子育て情報誌」が32.9%で最も多くなっており、次いで「家庭教育に関する学級・講座」が30.4%、「保健センターの情報・相談サービス」が27.6%、「教育相談センター・教育相談室」が24.2%などとなっている。

問57C. 各種子育て支援サービスの今後の利用希望(%)



2. 周南市に希望する子育て支援施策（問58）

周南市に希望する子育て支援施策については、「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」が56.2%と最も多く、次いで「子どもや親子で楽しめる公園の充実や、乳幼児連れでも活動しやすいまちづくり」(34.2%)、「子どもが健全に育つための対策の充実」(28.9%)、「職場での育児休暇の取得など、仕事と子育てが両立しやすい環境整備」(24.2%)、「子どもの自立を促す教育の推進」(19.6%)などの順となっている。

